

令和4年度 医学・歯学教育指導者のためのワークショップ記録集

事前アンケート (歯学)

令和4年度 医学・歯学教育指導者のためのワークショップ 事前アンケート<歯学>集計結果

<調査の概要>

本調査は、全国の大学・歯学部を対象に、令和4年度「医学・歯学教育指導者のためのワークショップ」のグループディスカッションの参考にするために実施した。

<調査対象>

全国29大学・歯学部

<調査時期>

令和4年6月

<調査方法>

記名式質問紙調査法(web)

<調査内容>

1. 情報・科学技術に関する教育の課題と実態について
2. 「総合的に患者・生活者をみる姿勢」に関する教育の課題と実態について
3. 診療参加型臨床実習について
4. プロフェッショナルリズム教育に関する課題と実態について

<回答率>

29大学中、全29大学より回答が得られた。(回答率100%)

<補足>

- ・自由記述に記載のある【】内の数字は同一回答を指す。
- ・自由記述に記載のある〇〇は具体的な県名や大学名を指す。

1. 情報・科学技術に関する教育の課題と実態についてお尋ねします。

参考) 令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム(案)で「情報・科学技術を活かす能力」に記載されているキーワード例

AI活用/数理・データサイエンス/医療データ開発/情報・科学技術に関連する規制(法律、ガイドライン)/ソーシャルメディア(インターネット、SNS)/情報リテラシー/医療への実践/医療情報システム/科学技術を用いたデータを収集と問題解決(EBM等)/医工連携(Digital Dentistry、ウェアラブルデバイス、遠隔医療技術等)/ICTツールの活用/デジタルコミュニケーションスキル/遠隔コミュニケーションスキル/eラーニング/新たな科学技術への柔軟性

1-1. (1) 「情報・科学技術を活かす能力」に関する教育を教養科目(準備教育)で実施していますか。

【選択肢】	回答数
①はい	28
②いいえ	1



1-1. (2) 上記(1)で「①はい」を回答した場合、教育の概要を記載して下さい。

【概要】

【基本的なICTツールの活用】

- ・基本的なPCの操作について、第1学年と第2学年で実施している。
- ・表計算ソフトを用いた作表、グラフ化、統計データの扱い方、基本的なデータ解析表および数値的問題解決への利用法を学習する。
- ・医学・医療に携わる者として、医学情報を基軸とした領域横断的な情報活用を行うための基本的スキルを修得する。
- ・コンピュータを使用した実習で解析方法を習得する。
- ・統計学の基礎及び様々な分野で利用されるデータ分析手法について解説し、加えてコンピュータを使った実習を行う。講義の進め方は、まず手法の理論を学び、次にその手法を手計算で実行してもらう。そして、Excelを使った情報処理及びデータ分析の実行方法も学ぶ。
- ・コンピュータ演習室で行う講義と演習を通して、データの整理や解析および発表にコンピュータを活用する場面を体験するとともに、その操作に習熟する。

【データサイエンス】

- ・コンピュータの能力を活用した問題解決手法やデータ科学を学ぶ意義を理解し、大規模データを利用した技術に関して人間中心の理解・判断ができるようになり、さらにそれらに関して実社会における課題を見出せるようになる。
- ・近年、データサイエンスおよび統計学は複雑で曖昧な生命現象を解明するために有効な科学的方法論として医療系諸分野の実務・研究に広く用いられ、その重要性が以前にも増して強く認識されるようになった。本講義では、今後のデータ駆動型社会において重要となる、「データをもとに事象を適切に捉え、分析・説明する力」を習得するために、データを適切に読み解く力およびデータを適切に説明する力を養う。
- ・情報・データ科学入門、ゼロからはじめるプログラミング
- ・コンピュータの能力を活用した問題解決手法やデータ科学を学ぶ意義を理解し、大規模データを利用した技術に関して人間中心の理解・判断ができるようになり、さらにそれらに関して実社会における課題を見出せるようになる。

【情報リテラシー】

- ・PC操作の基本、キーボード操作、学生ネットワーク、Microsoft Office各種ソフトの使い方に関する知識・技術の習得に加え、インターネットを通じたさまざまなデータベースから情報を的確に収集・検索する能力(メディアリテラシー)および情報倫理に関する知識を身につける。

- ・大学の学習や医療に必要な情報リテラシー、ITリテラシーを身につける
- ・情報を収集する力、得られた情報を整理する力、批判的に考察する力を養うことにより、大学教育における学習の理解の質を高めることを目標とする。
- ・全学共通教育の一つとして、医学部・歯学部共同授業「情報科学基礎」を開講し、情報リテラシー教育を行っている。
- ・自ら調べることの重要性を知り、情報やデータを取り扱う上での基本的な知識を説明する、インターネットや電子メールに関わる情報倫理を説明する、図書館やインターネットを使った情報収集の重要性を学ぶ、情報の検索・収集・整理・分析・表現・発信に関する技能を修得する。
- ・情報化が進んだ現代において、「情報を使いこなす力」（情報リテラシー）が生活する上での「生きる力」の一つとなっている。大学での学びにおいては、パソコンやネットワークを学術的な情報活用のためのツールとして不自由なく扱えるためのスキルと能力が必要不可欠である。そこで、〇〇大学では、学生が生涯にわたって主体的な学修を行っていくための基礎力として、情報リテラシーを1年次で身につけることとしている。本科目では、情報リテラシーの習得を目的として、情報機器や情報システム、ネットワークといった技術的知識、情報セキュリティや情報倫理などの生活知識を身につけるとともに、さまざまな情報システムやソフトウェアの活用技術を習得する。

【人工知能】

- ・今後のデジタル社会の基礎知識として捉えられている数理・データサイエンス・AIの基礎的素養を習得する、なぜ、数理・データサイエンス・AIを学ぶのか、社会でどのように活用され新たな価値を生んでいるのかという全体像の把握と、健康・医療分野でのAIの活用事例を学ぶ、将来的に保健医療分野におけるAI技術研究を自ら進めるもしくは企業等の技術者と共同でAI技術開発を推進する機会を得た際に必要となる素養を習得する

【複合的内容】

- ・数理データサイエンスAI、情報リテラシー
- ・本授業は大きく分けて二つからなる。一つ目は情報技術とデータサイエンスに関する知識を身につけることである。こちらに関しては、各内容について説明した後に確認のために小テストを行う。また二つ目は、ワープロ、インターネット、電子メール、表計算、プレゼンテーション等の各項目について、順次実習を行い習得していく。それぞれの項目について適宜レポート課題を出し提出してもらう。
- ・情報化社会を理解し、パソコンの基本操作、そしてインターネット閲覧ソフトの操作と情報の検索方法を習得させる。日常生活や社会で起きている変化を知り、Society 5.0社会に必要なデータサイエンス・AIの利活用について基礎的な知識を習得する。
- ・情報・科学技術に関連する規制（法律、ガイドライン）、ソーシャルメディア（インターネット、SNS）、情報リテラシー、科学技術を用いたデータを収集と問題解決（EBM等）、ICTツールの活用、デジタルコミュニケーションスキル、遠隔コミュニケーションスキル、eラーニング、数理・データサイエンスの基礎
- ・大学の授業で必要となるデータ解析、レポートの作成、検索や調査、プレゼンテーションといったパソコンを中心にICTの活用法、加えて、コンピュータの原理や構造、情報セキュリティやサイバー攻撃への対策、情報倫理ならびにAI活用などについて学んでいる。
- ・「デジタルネットワーク社会」に適應するためには、インターネットなどの情報通信技術（ICT）の進歩に対して、対応できる能力（情報リテラシー）を身につけなければいけない。医療人においても必要な情報を通信メディアから収集・蓄積し、情報資源の有効性と信頼性を評価してから有益な情報を選択し、発信・伝達することが必要不可欠になっている。歯学教育では、パソコン、インターネット等の情報ネットワークの利用、関連資料の検索（検索エンジンの利用）、自学自習や講義に必要な資料と情報の収集（E-learning システム Moodleの活用）、および学習能力にも関わってくるワープロソフト、表計算ソフト、電子メール等の活用について演習を行いながら学修し、それらを基に論理的な説明・報告等を行える能力を養う。

- ・本授業ではコンピュータおよび通信ネットワーク並びに情報セキュリティに関する基礎知識を修得し、加えてAI社会に対応するために必要な数理・データサイエンス・AI（以下、DS）の基礎知識を習得することを目的とする。授業は端末を使用した演習を多く含み、担当教員や教育補助員（Teaching Assistant等）が演習をサポートする。DS教育の一環として情報科学に関する基本情報の収集手法や収集したデータの統計学的見方の基礎を学ぶ。

- ・アカデミックスキルズにおいて、情報・科学技術に関連する規制（法律、ガイドライン）/ソーシャルメディア（インターネット、SNS）/情報リテラシー/についての講義を実施。〇〇大学ソーシャルメディアガイドラインの説明と承諾書への署名。デジタルコミュニケーションスキル/遠隔コミュニケーションスキル/のためGoogleMeet、Googleドキュメント、Googleスライド、電子ポートフォリオサイトの使用実践。

- ・教養科目「情報科学入門」ではコンピュータ技能、情報収集、分析および活用能力、歯科医学学習と研究での問題解決能力の向上を目指す。

- ・全学教育科目教養科目共通科目の中の情報学Ⅰとして必修科目として履修する。高度な情報活用能力を実践的に習得するとともに、情報活用に必須の情報社会・情報科学に関する基礎知識を習得する。簡単なPythonプログラミングを行うことによりコンピュータで行う処理に関する理解を深め、データサイエンスに対する初等的な処理に関して学ぶ。

- ・情報化社会に生きる市民としての責任と倫理を自覚し、適切な判断・行動ができるソーシャル・スキルを獲得する。
- ・医療情報処理演習で歯科医療の専門職に必要な情報通信技術（ICT）を活用する知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して適切な判断と解決のできる学術的・実践的能力を身につける。また医療人として必須となるコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の向上のために協働で課題を解決することを体験する。

【その他】

- ・情報科学演習（1年必修科目）

【授業テーマ】

【基本的なICTツールの活用】

- ・実用的な速さでタッチタイピングができる。
- ・パソコンによる文書作成、表計算の操作、プレゼンテーションのスライド作成がきちんと行える。
- ・パソコンを利用した情報処理能力の向上
- ・Google meetの使用方法。Google ドキュメント・Google スライドによる共同編集作業。電子ポートフォリオシステムの使用方法。
- ・文書作成技法、プレゼンテーション技法、データ処理、データ分析、情報検索

【データサイエンス】

- ・データサイエンス（今後のデータ駆動型社会において重要となる、「データをもとに事象を適切に捉え、分析・説明する力」を習得するために、データを適切に読み解く力およびデータを適切に説明する力を養う。）

【情報リテラシー】

- ・情報リテラシーⅠ：MS OFFICEと画像ソフトの基本的な使用方法、情報リテラシーⅡ：MS OFFICEを用いての問題作成とグループ内ブラッシュアップ
- ・インターネット検索により必要な情報を入手できる。
- ・情報リテラシー、情報セキュリティ、ITリテラシー、デジタル情報の特性

・情報リテラシー（情報倫理、図書館・インターネットによる情報収集）

【人工知能】

・医療とAI・ビッグデータ入門

【複合的内容】

・各自が作業を進めながらPCの基本操作技術を習得する、操作技術を実際に用いて演習課題を行う、習得したすべての知識・操作技術を用いて総合的な演習課題に取り組む、情報技術、ネットワークや情報セキュリティに関する基礎知識、情報収集・活用能力（メディアリテラシー）情報倫理について各自の考察を深める

・データサイエンス、AI、確率、統計、データ分析、コンピューターの基礎、プログラミング

・大学ネットワークの活用法、情報倫理、SNS等のメディアの使い方、PowerPoint/Word/Excelの使い方、コンピューターの原理、インターネットの仕組み、LANとWi-Fi、情報セキュリティ、Computer Aided Design/3Dプリント、AIの進化と活用など

・現代の情報化社会において、ネットワーク、およびPCを使いこなす技術は必須である。大学の授業におけるレポート作成、研究においてもこれらの技術なくしては成り立たない。また、数理・データサイエンス・AIの素養にも触れる機会とする。本授業では、情報科学に関する知識およびネットワークを用いた情報収集・発信、PCを用いた文書作成、計算、データ処理などを実習を通じて習得することを目的とする。

・パーソナルコンピュータの操作、情報セキュリティに関する知識、そしてインターネットを利用した情報の発信・収集といったコンピュータおよび通信ネットワークを活用する能力の滋養

・プレゼンやコミュニケーションツールとして、さらに、歯科医療におけるデータ構造の共通化やAI化に対応するためのデータ解析の道具として、コンピュータを使いこなす能力を身につける。

・情報活用、情報社会、情報科学、プログラミング、データサイエンス

・情報化社会に必要なICTの基本的な知識と技術を学び、情報機器を的確に活用できる情報リテラシーと情報マナーを修得する。ICTを用いた他者との交流、情報の収集と処理、自己表現を安全に可能にするため、個人情報保護などのセキュリティの知識を習得する。また、データサイエンスの基盤となる統計および数理の基礎と、データサイエンスの応用事例を修得し、さらに機械学習の概念を学んで、データサイエンスの果たす役割を概観する。

・情報とコミュニケーション、情報のデジタル化とコンピューティングの要素と構成、情報ネットワークと情報セキュリティ、インターネットサービスの仕組み、プログラミング演習

・情報セキュリティ、情報倫理に関する基礎知識（守秘義務とSNS、個人情報の保護、著作権と引用）。Google Classroomの使用方法と注意事項

・医学・歯科医学を統合的に理解して全人的な歯科医療を提供するために必要な基本的知識と技能を修得するために、また、ITを活用した豊富な教育資源を活用できるようになるために、本教科ではコンピュータ技能、情報収集、分析および活用能力、歯科医学学習と研究での問題解決能力の向上を目指す。同時に、情報倫理と言われる情報交換のルールに則り実施し、インターネット、SNS、電子メール交換の基本的ルールを理解する。

・情報科学、データサイエンス、情報倫理、調査と情報処理、プログラミング、人工知能、Pythonを使った簡単なプログラミング

・情報リテラシー、情報倫理、情報セキュリティ、ネットワーク社会

【その他】

・サイバーセキュリティ基礎論

・情報のデータと基礎

・医療情報処理学 I～IV

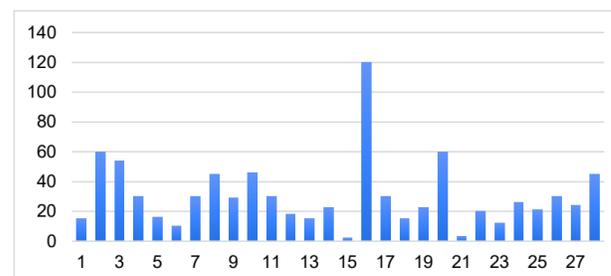
・情報処理演習

・データ分析の理論と実践及び情報処理・基礎編、応用編

・情報科学の実習

授業時間数

平均32.4時間(最大:120時間、最小:2時間)



【所属】

教養系	6
物理学	5
情報	4
ICT活用部会、ICT基盤センター	2
生化学	2
化学	2
数学	2
組織学	2

<その他>

メディア・コミュニケーション研究院

サイバーメディアセンター、M&Dデータ科学センター、数理情報科学分野、工学

生物学、生理学、解剖学、生体材料学、細菌学、組織・発生学、ドイツ語

薬理学講座、歯科医学教育開発センター医歯薬学域

社会歯科学講座、医療統計学分野

医学部、総合診療学分野、クリニカルクラークシップ開発学分野

総合歯学教育学講座、歯科放射線学、歯科矯正学、歯科法医情報学分野

法歯学・法人類学講座、歯科理工学講座、口腔内科学、歯周病態学分野

応用情報歯学分野、予防歯科学分野、歯学部マルチメディア室

【目標】

【基本的なICTツールの活用】

- ・電子メールおよびインターネットを使用する際の留意事項を理解し必要に応じて正しくかつ適切に活用できる
- ・大学が提供する学生ネットワーク環境を理解し、正しくかつ積極的に活用できる
- ・Microsoft Office Excel 2016の基本操作とその活用ができる
- ・Microsoft Office Power Point 2016の基本操作とその活用ができる
- ・Microsoft Office Word 2016の基本操作とその活用ができる
- ・Microsoft Windows10の基本操作ができる

- ・Power Point を用いて目的に応じた適切かつ魅力的なプレゼンテーションができる
- ・Excelを用いて適切なデータ処理・分析ができる
- ・コンピューターやインターネットの操作に習熟する。
- ・理系学生として必要なオフィスソフトが利用できる。
- ・インターネットの原理が説明できる。
- ・メールやWebなど、インターネットアプリケーションが利用できる。
- ・コンピューターの原理が説明できる。
- ・ICT機器の操作と活用ができるとともに、機器の動作に不具合が生じた場合に適切な解決策をとれる。
- ・現代社会において必須の情報科学に関する知識、および、情報技術であるネットワーク、パーソナルコンピュータの基礎的な利用、応用ができる。
- ・パソコンの基本操作や文書作成ソフトにより文書作成や編集する能力を修得する。
- ・インターネット活用し、情報を収集したり発信することができることを理解する。
- ・表計算ソフトにより表計算、統計処理、作図といった能力を修得する。
- ・プレゼンテーションソフトにより、作成したものを報告・公表するための能力を養う。
- ・コンピューターの概要を理解し、基本操作を取得する。
- ・文書作成、表計算、プレゼンテーションアプリケーションの基本機能を学習し、効果的に使用できる能力を修得する。
- ・オンラインでグループ協働を行う際に必要となるGoogle meetによるオンライン会議の進め方や、Googleドキュメント、Googleスライドを用いた情報共有、Googleドライブによるファイル共有の方法を理解し、グループ協働に活かすことができる。
- ・Google Classroom、電子ポートフォリオシステム等を利用して、他者に配慮しながら授業参加、課題提出、情報共有ができる。
- ・レポートや論文などの定型文書の作成方法を説明する
- ・データの集計方法や視覚化の方法を説明する
- ・コンピューターを使ったプレゼンテーションの方法を説明する
- ・パソコンの基礎知識と操作を説明できる。
- ・パソコンで基本的な文章を作成することができる。
- ・収集した情報やデータを処理、グラフ表示することができる。
- ・図・表を文章中に挿入したレポートの作成ができる。
- ・処理した情報やデータを加工し、プレゼンテーションをすることができる。
- ・図書館での情報収集や学術文献を検索をすることができる。
- 【データサイエンス】
- ・データサイエンスで使われるいくつかの初等的な処理に関して理解し、実際のデータに対して実行できる
- ・データサイエンスの基盤となる統計および数理の基礎、データサイエンスの応用事例、機械学習の概念を修得する。
- ・数理データサイエンスの基礎知識を修得する。
- ・歯科医療とデータサイエンスの関りの例を挙げることができる。
- ・社会で起きている変化を理解し、数理・データサイエンス・AIを学ぶことの意義を説明できる
- 【情報リテラシー】
- ・情報技術によって社会がどのように変革してきているかを理解し社会における問題について技術と法律と倫理の3つの面から自分で調べ考える態度を身につける
- ・情報化社会に必要なICTの基本的な知識と技術を修得し情報機器を的確に利活用できる情報リテラシーと情報マナーを身につける。
- ・情報活用に必須の情報社会・情報科学に関する基礎知識を習得し、実践的に活用できる
- ・収集した情報について、自らが基準をもって判断できる。
- ・情報の利用にあたって、倫理的な視点を持つことができる。
- ・メディアの特性について区別することができる。
- ・情報化社会に生きる市民として、また高度な医療専門職として、情報を利活用する上での適切な知識を身につけ、それに基づいて適切に判断・行動ができるようになる。
- ・インターネット上の情報を正しく取捨選択して活用するスキルや、ICT機器を用いて情報発信するスキルを習得する。
- ・情報リテラシー 今日の情報基盤社会においては、学習活動を発展させるには、既存の知識を自らの手で体系化し、利用可能な形に変えることは不可欠な技法であるといえる。本科目では、情報を収集する力、得られた情報を整理する力、批判的に考察する力を養うことにより、大学教育における学習の理解の質を高めることを目標とする。
- ・情報リテラシーを身に付け、情報倫理を踏まえたデータ活用ができるようになる。
- ・高度情報化社会の構成員として大学生にふさわしい情報社会の原理・本質・価値・限界・可能性等を理解し、これを使いこなす対応力を修得する。
- ・情報やデータの取り扱い上での基本的な知識を説明することができる、インターネットや電子メールに関わる情報倫理を説明することができる
- ・図書館やインターネットの必要性が説明できる、情報の検索・収集・整理・分析・表現・発信を行うことができる。
- ・情報倫理、情報セキュリティや著作権について理解する。
- ・情報倫理および情報セキュリティに関して十分な知識を修得する。
- ・ネットワーク上のマナーを身につけ、電子メールによる情報交換やWWWを利用した情報収集・検索ができる能力を修得する。
- ・診療・研究で使用されるコンピュータ技術とネットワークの基礎を理解するために、種々の情報を的確に整理できる。
- ・現在特に問題となっている個人情報保護とSNSの関係、著作権保護などの情報倫理の身近な問題について、その対応策を例示できる。
- ・インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティーに配慮して活用できる。また、情報セキュリティーを高めるために必要な基本的な留意事項について概説できる。
- ・歯科医療の専門職に必要なコンピューターとインターネットの活用方法を説明する
- ・ネットワーク社会におけるモラルや著作権に配慮したインターネットの利用と活用方法を説明する
- ・どんなデータが集められ、どう活用されているかを説明できる
- ・情報化社会の特徴を理解し、倫理感を保持することができる。
- ・情報を扱う際の態度と情報セキュリティの重要性を述べることができる。
- ・情報端末やネットワークを適切に用いて、情報及び情報技術を正しく扱うための、基本的な情報リテラシーを身につけること
- ・情報リテラシー、情報セキュリティ、ITリテラシー、およびデジタル情報の特性について説明できる
- 【人工知能】
- ・AIを活用した新しいビジネス/サービスを説明できる

- ・データ・AIを活用するために使われている技術を概説できる
- ・データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているかを説明できる

【統計学】

- ・統計学の基礎およびデータ分析手法の基礎的理論を説明できる。実際にデータ分析手法を実行し、結果を正しく解釈できる。
- ・表計算および統計処理の基礎を学び、様々な数理モデルに対する数値計算やシミュレーションを行える。
- ・代表値および散布度を概説できる。
- ・直線回帰および相関係数を概説できる。
- ・確率の概念を概説でき、順列・組み合わせに関する基本的な確率を求めることができる。
- ・離散型と連続型の確率変数およびそれらの分布を概説できる。
- ・代表的な確率分布を概説でき、確率を求めることができる。
- ・統計解析ソフトウェアを用いてデータを可視化することができる。
- ・母集団と標本抽出を概説できる。
- ・中心極限定理と標本平均の正規近似を概説できる。

【プログラミング】

- ・簡単なPythonプログラミングを習得し、コンピュータにおける情報処理の基礎を理解できる
- ・プログラミング言語 Python を使った簡単なプログラムが作成できる。

【情報セキュリティ】

- ・サイバーセキュリティに関する専門的な知識の理解、および、講義で得た知識を応用して自分の生活に役立たせることができる技能の習得
- ・情報セキュリティやネット犯罪について説明することができる。

【課題解決能力】

- ・問題解決ができるようになる。
- ・獲得知識を総合的に発揮し、課題解決に対応できる能力を修得する。
- ・SGDIにおいてはクラウドを活用しながらメンバー相互が協働して課題を解決し、その結果をまとめて発表する
- ・数人のグループで議論しながら、一つのテーマに関する題材をインターネット上で集め、整理して電子スライドにし、発表できる。

【複合的内容】

- ・高度に情報化した現代ではパソコンの活用は必須である。大学での勉学においては、レポートの作成、プレゼンテーション、実験データの統計処理、情報の検索、メールによる伝達など活用場面は多岐にわたる。これらに対応するために、基礎的な技能や知識をマスターし、未知の事柄に遭遇しても、独力で習得していける土台を身につける。

・高度情報化社会の中でデータおよびコンピュータを活用していくのに必要となる基礎的な知識や技能を得る。さらに、有用性と問題点、情報倫理上の課題を検討した上でデータサイエンスと情報科学の知見を活用する能力を身につけ、将来、新しく現れる技術にも対応していく態度を育てる。プログラミングの基礎を学び、コンピュータを活用する知識や技能を習得する。同時に、数理的な素養と論理的思考力を向上させる。プログラミング言語として、簡単でわかりやすく、データサイエンスやAIの分野で多く使用されているPythonを用いる。

- ・歯科医師として必須の数理的思考・表現及びデータサイエンスとAIの基礎を修得する。
- ・大規模データの基本的な取扱いができるようになるとともに、データの統計的解析に基づく情報分析を通して人間中心の理解、判断ができるようになる。
- ・計算機科学的手法による論理的思考

【方略】

【講義】 【1】

- ・AI・数理・データサイエンスに関する概論講義、実習、社会におけるデータ・AI利活用に関する講義：社会に起きている変化、社会で活用されているデータ、データ・AI の活用領域、データ・AI 利活用のための技術、データ・AI 利活用の現場、データ・AI 利活用の最新動向など

【演習】 【5】

- ・各自が作業を進めながらPCの基本操作技術を習得する、その操作技術を実際に用いて演習課題を行う
- ・習得したすべての知識・操作技術を用いて総合的な演習課題に取り組む
- ・教員がプロジェクターにより実際の操作方法を説明した後、学生がパソコンによる演習を行う。説明は状況により適量に小分けにし、これを繰り返す。各回の演習で作成したファイルはその回に提出してもらう。提出物に不備があり理解不足と認められる箇所については、指摘する。
- ・タブレット型端末などを用いて実際的な演習を中心とする指導を行う。
- ・パソコン演習

【実習】 【2】

- ・プリント・パソコンを使用した実習形式
- ・情報学の様々なテーマについて課題設定し、情報システムおよび情報メディアを高度に活用した実習を行う

【複数併用】 【9】

- ・講義形式で行う。また、少人数でのグループ作業を適宜行う。
- ・受動的行動：講義、ビデオ教材視聴
- ・媒体：プリント、パソコンによるスライド映写、ビデオ教材
- ・非同期型メディア授業による講義と、同期型メディア授業による演習を組み合わせた授業により、情報科学を理解して利用するための知識と技能を習得する。
- ・能動的行動：パソコンを用いた演習、ディスカッション、課題提出
- ・情報社会・情報科学の基礎知識についてビデオ教材等を用いて講義と実習を行う
- ・座学の他に、ネットワークを用いた情報発信、PCを用いた文書作成、表計算、プレゼンテーション、データ処理などの実習を行う。

・PCローカルのアプリケーションを利用して指定の書式でレポートを作成する、指定された原稿の内容を理解して、原稿の内容を概念図などにより表現しながら、スライドを作成する、10名程度のグループで、与えられた課題に関わるアンケート調査を行い、その結果を踏まえて他面的な視点を持って討議をして課題に対する最適な対応策を見つけ出す

- ・アクティブラーニング、ミニッツペーパー（振り返りシート）

【その他】

- ・情報技術、ネットワークや情報セキュリティに関する基礎知識、情報収集・活用能力（メディアリテラシー）情報倫理については各自の考察を深める

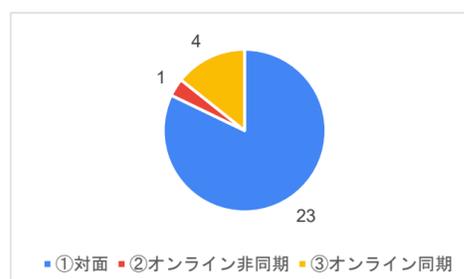
- ・医療に携わる高度職業人として要求される、ICTの利用技能および課題解決に即時に対応出来る能力の獲得を念頭に行われる。
- ・記述統計学および母集団と標本抽出に関する基本知識を習得することにより、データを適切に読み解くことができる。また、統計解析ソフトウェアを用いたデータの可視化方法を習得することにより、データを適切に説明することができる。
- ・情報端末やネットワークを適切に用いて、情報及び情報技術を正しく扱うための、基本的な情報リテラシーを身につけることを到達目標とする。
- ・PCの基本操作、ネット接続、ソフトウェアの操作を実際にPCを使用して学習する。
- ・問題解決の一環として、文書作成、表計算処理等の課題を行う
- ・Pythonプログラミングについて学び、データサイエンスで用いられる初等的なデータ処理・可視化手法をPython上のPandasを用いて学ぶ
- ・データサイエンスについては、歯学系における研究事例を紹介するとともに、データの基本的な分析方法を理解しコンピュータを用いて実践する。
- ・コンピュータを使用して種々の情報を的確に整理する。
- ・実践の試験（PCネットワーク上）。
- ・PC教室で全員が統一された端末を使って、Officeの各アプリケーションやメールの使い方などについて、操作し、そのPCを通してレポートを提出させている。

【評価】

- 【複数併用】**
- ・授業における各自の取り組み、そこで行った課題の内容と提出状況、出席状況、受講態度、発表会内容などをもとに総合的に評価する。
 - ・試験40%、課題提出40%、宿題(予習課題)20%により評価する。
 - ・モジュール試験、アクティビティ（レポート）
 - ・定期試験（50%）、平常試験（30%）、提出課題（20%）として総合点とする。総合点から欠席・遅刻・課題の未提出・不適切な演習態度による減点を行い成績とする。平常試験（実技）のフィードバックは、PDF等の提示により行う。
 - ・8回分の小テストとシリアスゲームの結果で成績評価する。
 - ・実習への出席・態度、課題から総合的に評価
 - ・成績評価は「学修成果の質」に応じて行うこととする。授業に毎回出席し、指示された課題を提出することを単位認定の条件とする。
 - ・演習状況（小テストや提出物あり）；最終試験（オンライン；提出物の相互評価をルーブリックで実施）
 - ・情報リテラシーⅠ：グループによるプレゼンテーションならびにワープロと表計算のプロダクトで総合評価、情報リテラシーⅡ：定期試験で評価
 - ・この授業は実務・実践的授業であるために、単位取得には全ての授業への出席かつ課題提出を必要条件とし、これに加えて授業態度や課題に取り組む積極性などの受講態度を加味する。そのいっぽうで試験は実施しない。複数回の欠席や、未提出課題がある場合には低評価や単位取得不可の原因になるので注意されたい。
 - ・課題提出（70%）、受講態度（30%）とする。受講態度は3段階（よい、普通、わるい）で評価する。総合点が60点以上ならば合格とする。
 - ・小テスト（50%）、課題レポート(50%)により総合的に評価を行う。
 - ・レポート、小テスト、期末テスト
 - ・定期試験による評価、課題による評価
 - ・試験の成績60%、平常の成績40%、平常点の評価方法 ⇒ 課題提出物（100%）
 - ・課題（小テスト等も含む）の総合評価（100%）で評価する。ただし、総合評価には2/3以上の出席および2/3以上の課題提出を必要とする。
 - ・授業中に指示する課題 ・試験
 - ・情報収集の準備(1回)、Google Classroom(1回)、Google meet(1回)、情報倫理(1回)：30%
 - ・授業参加態度(30%)、毎回の授業で作成する課題の評価(70%)
 - ・提出物(電子ファイル) 60%、演習時間中の発表 40%
 - ・定期試験70%、レポート30%で評価する。
 - ・講義内に行う試験(総括的評価)、平常点(総括的評価)、課題、レポート(総括的評価)、事前事後学習(形成的評価)
 - ・課題等の成果物及び小テストを70点、定期試験を30点として、総合的に評価を行い、100点満点のうち60点以上を合格とする。
 - ・平常点、テスト、レポート
- 【レポート】 【2】**
- ・講義・演習後の課題レポートおよび科目全体の評価課題である論証型レポートの成績の一部を評価としている
 - ・レポート
- 【その他】**
- ・振り返りシート
 - ・各講義後のwebclass上の課題および各演習後のプログラミング課題により成績評価を行う、科目責任者が応用演習中に行う課題を主として判定する、期限を過ぎて提出された課題は、「遅延課題」として評価する、課題をすべて提出し、提出された成果物によりすべての課題の到達目標に達していると判断された場合は B 評価以上とする

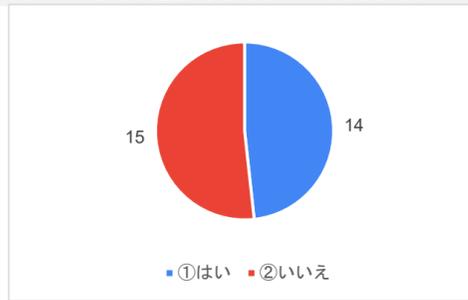
インフラ（主たるもの）

【選択肢】	回答数
①対面	23
②オンライン非同期	1
③オンライン同期	4



1-2. (1) 「情報・科学技術を活かす能力」に関する教育を教養科目（準備教育）以外で実施していますか。

【選択肢】	回答数
①はい	14
②いいえ	15



1-2. (2) 上記(1)で「①はい」を回答した場合、教育の概要を記載して下さい。

【概要】

【デジタルデンティストリー】

- ・全部床義歯・部分床義歯の設計・製作のデジタルワークフローを理解する、CAD/CAMシステムを用いた全部床義歯製作のワークフローを体験する
- ・インプラントシミュレーションソフトを用いたインプラント治療計画の立案。
- ・歯科医療における歯科用CAD/CAMについて理解する

【統計調査等の活用】

- ・臨床疫学とEBM
- ・保健統計調査について（歯科に関係する国家統計調査データ）
- ・衛生統計演習（データの分析方法）
- ・う蝕のデータ分析（国家統計調査データおよび調査データを用いた）

【複合的内容】

・情報・科学技術に関連する規制（法律、ガイドライン）、ソーシャルメディア（インターネット、SNS）、情報リテラシー、医療への実践、医療情報システム、科学技術を用いたデータを収集と問題解決（EBM等）、遠隔医療技術等、ICTツールの活用、デジタルコミュニケーションスキル、遠隔コミュニケーションスキル、e-ラーニング、保健統計学。

・バーチャルスライドによる遠隔組織・病理実習、フロンティア基礎科目：3D-CADと3Dプリンター実習、PUBMEDを用いた論文検索、筋電計を用いた筋活動の解析、海外歯学生とのオンライン交流・討論等、冠橋義歯補綴学・臨床基礎実習：口腔内スキャナーでの計測、歯科用3D-CADでの設計、3Dプリンターでの出力実習、フロンティア発展科目：CAD/CAMセミナー、シミュレーションソフトを使用したインプラント診断

情報の科学では、実務上必要なタブレット端末およびコンピュータの基本構造を理解し、各種プログラムの使用法を学び、さらに他のタブレット端末およびコンピュータとの接続法、インターネットへのアクセス方法およびプログラムの作成法ならびに外部センサーからの入出力についてを学習し、また、医学における統計情報の必要性を認識し、簡単な集計および分析を学ぶ。さらに、歯科領域におけるCAD/CAM用3次元データの構造を理解し、歯の3次元モデルを構築する技術を学ぶ。これらの知識の修得後に、人工知能の構築法を学び、歯科領域における人工知能の応用について学習する。

・学修管理システムの利用法、情報リテラシー、図書館での情報収集、タイピング、プログラミング、画像・動画処理、プレゼンテーションの資料作成・発表にいたる幅広い教育を行う。

・臨床実習Ⅱでは包括的な歯科医療を実践する診療内容に重点を置き、歯科医師としての仕事の多様性を理解し、卒後の歯科医師臨床研修及び生涯学習のあり方を学修する

・口腔総合医療学の授業において医療と情報の関わりを学ぶとともに、医療情報の特性や注意点を理解する。

・AI・データサイエンスの価値を理解し、将来的に医療分野におけるデータサイエンスを活用したAI技術研究を自らあるいは企業などと共同で推進するために必要な実践力を身に付ける

・発展する医療情報化社会の中で、患者やスタッフはもとより歯科医師自身を守るための知識や技能を身につけ、歯科医師として必要な医療情報技術と実践的なデータサイエンスについて学ぶ。

・歯科診療システム管理学の中で、医療や研究を遂行するために必要なマネジメントとしての情報の取り扱いについて学んでいる。

・科目名（D2, D3, オーラルフィジションの基盤Ⅰ、Ⅱ）歯科医師になるために最新の知識や技能、必要な情報を得るためにPBL形式にてグループ学修し、情報リテラシーにそって信頼できる情報から患者状況を把握し文章にまとめる能力を身につけることを目標とする授業である

【その他】

- ・専門の科目として実施しておらず、各科目の中で取り扱っている。
- ・情報活用演習
- ・オンラインによる医療面接実習を実施している。
- ・医工連携の現状と将来像について紹介する。

【授業テーマ】

【デジタルデンティストリー】

- ・有床義歯治療のデジタル化
- ・歯科用CAD/CAMと審美修復材料

【複合的内容】

・組織・病理標本の遠隔自習ができる、デジタル・ワークフローによるものづくり（歯冠修復物の製作）を理解・実践する、デジタル技術を活用したシミュレーションや治療計画の立案の流れを理解する、医工連携、医療情報システム、デジタルコミュニケーションスキル、遠隔コミュニケーションスキルを理解する

・組織工学、画像診断、デジタル・デンティストリー、医用材料、生体材料、歯科材料など最新情報を知り、将来の歯科医療革新に備える。

・医療情報の特性、医療データ開発、医療情報システムの概要、ICTを用いた遠隔診療、データの収集と統計処理、医工連携（AIのDigital Dentistryへの応用）

・口腔インプラント学 講義・基礎実習、口腔インプラント学に対する基本的知識、技術を修得することを目的とする、

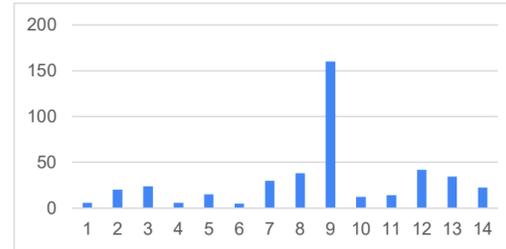
・情報化社会に必要なICTの基本的な知識と技術を学び、情報機器を的確に活用できる情報リテラシーとマナーを修得する。ICTを用いた他者との交流、情報の収集と処理、自己表現を安全に可能にする。臨床実習等で医療情報システムを使用する際の情報リテラシー、個人情報保護などのセキュリティの知識を習得する。各種保健統計調査結果の解釈を通じて、保健・医療の問題点を把握する。同時に、データ解析に必要な基本統計量を習得する。

・歯科医師として医科との地域医療情報ネットワークの一員として十分な情報データセキュリティ意識を習得し、患者の

QOL 向上のための最新の医療情報を得て日常の診療に活用できる能力を身に着ける。

- ・本学での6年間の教育で利用するICTツール、生涯学習のためのコンテンツの利用、情報リテラシーを学習する。
- ・データサイエンス、情報セキュリティ、個人情報保護
- ・シナリオから課題（疑問）を発見し課題（疑問）を解決するために、学修項目を決めて信頼できる情報を基に自己主導型学修を行い、グループで共有した上で、課題（疑問）を解決する演習を通じて、問題発見、問題解決のプロセスを学ぶ。
- ・包括的な歯科医療を実践する、包括的な歯科医療についての知識の整理、統合、EBMの基礎を修得する
- ・医療とAI・ビッグデータ応用
- ・医療人としての高い倫理観や人間性・協調性を醸成するために、コミュニケーションに必要なカウンセリング技法の修得と医療面接を実習を通して体験し、来るべき臨床実習に備えることを目的としている。
- ・情報科学、コミュニケーション、ノート活用、対話、言語技術、言語の論理
- ・衛生学分野（1.疫学、2.保健統計、3.衛生統計、4.DMFの疫学）

授業時間数
平均37.2時間(最大:160時間、最小:5時間)



【所属】

- 【歯学部】 【3】
 - ・歯学部専任教員、非常勤講師
 - ・主に大学歯学部教員が担当し、一部のテーマに関しては企業の方を含む非常勤講師に依頼している。
- ・歯学部
- 【複数の分野】
 - ・本学歯学研究院冠橋義歯補綴学教室、口腔顎顔面外科学教室、硬組織発生生物学教室、血管生物分子病理学教室、国際歯科部
 - ・学術研究院医歯薬学域歯学系；歯周病態学分野、応用情報歯学分野、予防歯科学分野、歯学部マルチメディア室
 - ・クリニカルクラークシップ開発学分野他
 - ・病理学、口腔衛生学、放射線学、歯科理工学
- ・歯科クリニック、大学病院、歯周歯内治療学、う蝕制御治療学、高度先進保存学、咬合再建補綴学、クラウンブリッジ・インプラント補綴学、高度先進補綴学、デジタル歯科医学、組織再建口腔外科学、顎顔面口腔外科学、口腔再生医学、歯科麻酔科学、歯科放射線科学、高齢者・有病者科学、歯科矯正学、小児歯科学、保健衛生学、臨床教育管理運営、歯学教育開発学
- ・統合教育機構、大学院医歯学総合研究科
- ・基礎系講座、臨床系講座、附属病院にいたるICT関連に精通した教員
- ・口腔インプラント学講座、歯科理工学講座、社会歯科学講座、衛生学講座
- 【その他】
 - ・教養教育
 - ・歯学教育学講座
 - ・歯科理工学講座

【目標】

- 【EBM】 【3】
 - ・発展し続ける医学・歯科医学の中で必要な知識を身につけ、根拠に基づいた医療（EBM）を基盤に、患者、家族に最善の医療を提供できる歯科医師になるために、課題を発見し、それを解決するための能力を身につける。
 - ・各分野の基本的診療についての知識、技術、態度を統合し、包括的な歯科医療を実践するための知識、技能、態度を修得する、歯科医師臨床研修及び生涯学習を行うために必要な根拠に基づく医療（EBM）の基礎を修得する
 - ・EBMを理解することにより、問題解決能力（医療の実践）を身につける。得られたデータの統計解析ならびにそれに基づくデータの解釈できる。
- 【デジタルデンティストリー】
 - ・全部床義歯・部分床義歯の設計・製作のデジタルワークフローを理解し説明できる、CAD技術を用いた全部床義歯の設計方法を理解する
 - ・インプラントシミュレーションソフトを用いたインプラント体埋入計画が立案できる。
 - ・歯科用CAD/CAMの特徴と用途を説明する
- 【データサイエンス】 【4】
 - ・データサイエンスの概略を説明できる。
 - ・データサイエンスを実践するために必要な数理モデルの理論的背景を概説できる
 - ・データサイエンスを実践するために必要なAIモデルの理論的背景を概説できる
 - ・データサイエンスを実践するために必要な前処理を行うことができる
- 【情報セキュリティ】 【2】
 - ・情報セキュリティの重要性及び個人情報保護の必要性が説明できる。
 - ・医療情報倫理を十分理解でき、患者のセキュリティ情報の重要性を認識し尊重できるとともに、十分に保護できる能力をつける。
- 【人工知能】 【1】
 - ・AIの基本的なモデルのプログラムを作成できる
- 【機械学習】 【2】
 - ・教師あり機械学習と教師なし機械学習の違いを説明できる
 - ・機械学習を活用し、課題解決につなげることができる

【複合的内容】

- ・歯科医療に関わるデジタルデータの本質を理解し、その利用方法を自ら考える力を養う（一般的な医療に関わるデジタルデータについては、医科での利用・発展に併せて取り入れていく）、医工連携、医療情報、コミュニケーションスキルについて理解でき、一部の機器を使用できる
- ・臨床実習等での医療情報システムを使用する際に必要な情報リテラシーを修得。特に、個人情報保護などの情報セキュリティに関わる知識を持って実践。確率変数とその分布、統計的推測（推定と検定）の原理と方法、主な保健医療統計、調査方法と統計的分析法を説明できる。
- ・改善活動に必要な分析方法を説明できる。
- ・医療を適切に行うために必要な、医療情報やデジタル機器の取り扱いと利用を理解する。
- ・ICT活用における基本的倫理をまず修得させる。基本的統計リテラシー、放射線画像の取り扱いの基本を修得後、プログラミングの基礎とAIの基本について学ぶ。□
- ・医療情報化社会の中で、歯科医師として他科との患者情報の多面的連携を中心とした地域医療情報ネットワークの一員として参加できることを目的とする。
- ・ネットワーク社会から患者やスタッフはもとより歯科医師自身を守るための知識や技能を身につける。
- ・日々発展している歯科医学とその関連情報を入手し、課題解決に資するデータ分析できる知識や技術を会得することを目標とする。
- ・生涯にわたって良質の歯科医療を提供するために、ICTを活用して最新の医療情報を収集・分析・評価およびモラルに則って効果的に利用する技術や表現方法を含む能力を修得する。
- ・健康長寿社会の実現に貢献できる歯科医師を目指し、歯科学生として診療参加型臨床実習で適切な患者対応を行うために、コミュニケーションに関する知識、技能、態度を修得する。
- ・全ての学問や社会生活の基礎となる言語技術を中心とした基礎知識や情報技術を修得し、社会における問題点を検討して問題解決に向けて自ら考える力を身につけることを目標とする。

【その他】

- ・近い将来の歯科医療に必須の医工学に関する知識を説明でき、その基礎的な応用ができる。
- ・医療に必要なマネジメントが説明できる。

【方略】

【講義】

【7】

- ・講義(インプラントシミュレーションソフトを用いたインプラント治療計画の立案の特徴について理解させる。等)

【実習】

【5】

- ・実習(相互実習、ロールプレイ実習、顎模型CTデータとインプラントシミュレーションソフトを用いてインプラント体のサイズ、位置を設計させる等)
- ・冠橋義歯補綴学実習、フロンティア基礎科目、フロンティア発展科目などで、デジタルデータ（生体から取得した歯・歯列・顎口腔領域の形態データ、および、修復物、補綴装置、矯正装置などの歯科治療に用いる装置の設計データ）について、3D-CADなど一部を遠隔実習を実施している。一方で、これら全てのデジタルデータを活用するには、早期からソフトウェアを使いこなせる学習カリキュラムを構築する必要がある。
- ・PCとiPADにより情報を共有させ、コンピュータ上において実習に近い形で統計解析、画像処理を行う。また電子回路の組み立てならびプログラムのソースコードを記述しPC上での動作を修得させる。□

【演習】

【3】

【PBL】

- ・PBL形式としてシナリオから課題（疑問）を発見し課題（疑問）を解決するために、学修項目を決めて信頼できる情報を基に自己主導型学修を行い、グループで共有した上で、課題（疑問）を解決する演習を通じて、問題発見、問題解決のプロセスを学ぶ。

【複合的内容】

- ・デジタル・デンティストリー等の先端技術に触れて利点と欠点を学び、従来技術とのベスト・ミックスを考える基盤が形成されるよう促す。
- ・IT化が進み、医療分野でのデジタルデータ、デジタル機器利用が一般化する中で、これらを適切に管理・利用して、医療を適切に行うために必要な知識を習得する。
- ・一口腔単位での包括的な歯科医療を実践する、臨床ゼミによって包括的な歯科医療についての知識を整理、統合する、自験例について症例報告書をまとめるとともに、臨床的課題についてエビデンスを基に考察を加える
- ・AI総論、データの読み込み、データセットの理解と加工、多層パーセプトロン、畳み込みニューラルネットワーク、深層学習グループ演習
- ・実際にPCを用いた実習形式、作成したコンテンツやプレゼンテーションの発表
- ・レポート、ディスカッション
- ・演習中心、対話、議論、学生の発表、PCを使用

【その他】

- ・実践の試験（PCネットワーク上）。

【評価】

【複数併用】

- ・筆記試験、実習試験、提出物
- ・冠橋義歯補綴学・臨床基礎実習、フロンティア基礎科目、フロンティア発展科目では、出席状況、レポート、実習の製作物で評価している。一方、各科目の授業内容に組み込まれている場合には、その評価基準に準じる（バーチャルスライドによる組織・病理実習など）。
- ・演習状況（小テストや提出物あり）；最終試験（オンライン；提出物の相互評価をルーブリックで実施）
- ・定期試験、レポートならびに小テストでの総合評価
- ・ユニット「オーラルフィジシヤンの基盤I」の評価におけるサブユニット「基盤I情リテ」の割合は70%、「基盤Iコミュ」の割合は30%とする。サブユニット「基盤I情リテ」の評価は、学修レポート（ルーブリック評価）「50%」、ポートフォリオ「20%」、説明会「20%」、小テスト「10%」で総合的に行う。
- ・臨床実習Ⅱで課せられた課題（90%）と学外実習の課題（10%）の総合評価
- ・講義の出席、授業中の態度、演習の課題、演習への取り組み姿勢、期末試験の成績を総合的に勘案して最終的な成績とする
- ・試験 70%、出席状況 5%、口頭試問・レポート 15%、授業態度 10%

- ・提出課題の内容、実地試験、観察記録、プレゼンテーションの内容
- ・試験：プレ・ポストテスト、提出物評価：治療計画済みシミュレーションデータの提出
- ・6年一貫したポートフォリオ（形成的評価）、相互評価フィードバック（形成的評価）、観察記録（総括的評価）、平常点評価（総括的評価）
- ・講義内容の理解度を論述、計算問題などの記述試験、あるいは多肢選択式試験で評価する。課題の提出状況、授業の出欠状況、日常的な授業における取組状況も評価。
- ・レポート、議論・対話、平常点
- 【レポート】 【2】
- ・各講義の内容に関するレポートを作成し、その点数により評価を行う。
- ・レポート
- 【試験】 【2】
- ・期末テスト
- ・筆記試験（ソースコードの動作をPC上でさせる） □

インフラ（主たるもの）

【選択肢】	回答数
①対面	12
②オンライン非同期	0
③オンライン同期	2



1-3. (1) 臨床実習中に「情報・科学技術を活かす能力」に関する教育を実施していますか。

【選択肢】	回答数
①はい	12
②いいえ	17



(2) 上記(1)で「①はい」を回答した場合、教育の概要を記載して下さい。(自由記述)

【概要】
<p>【デジタルデンティストリー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口腔内スキャナーを用いたCAD/CAM冠の製作の流れを見学する ・オムニバス形式で行っている臨床講義の中で、光学印象についての講義・実習、CAD/CAM技術を用いた歯科治療、シュミレーションソフトを用いたインプラント治療などについての講義を行っている。 ・デジタルデンティストリーを活用した歯科診療、歯科技工の見学 ・I O S (口腔内スキャナー) の取扱いと実践 ・CAD/CAMシステムを応用したクラウンの製作に関する講義および実習を実施している。 ・CAD/CAM実習(CAMの操作説明とミリングマシンによる切削加工、口腔内スキャナーを用いたスキャニング、3Dプリンターと3Dモデリングの体験) ・コンピュータシミュレーションソフトによるインプラント治療計画の患者説明、コンピュータ支援型手術(ガイドドサージェリー)によるインプラント埋入手術、スキャンボディと口腔内スキャナーを用いたインプラント光学印象の臨床見学ならびに基礎実習 <p>【医療情報】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床系各分野・診療科等では、実際に電子カルテに記述し、情報を利用したカンファレンスと臨床実習を実施。患者を継続的に観察し、口腔内の健康指標が変化を統計学的に処理し、科学的な解釈を採る。 ・診療参加型臨床実習で必要になる大学附属病院で運用している医療情報システムについて学んでいる。 ・医療分野におけるデジタルデータの利用について学び、医療情報システムの利用を体験する。 ・Pubmedやマインズへのアクセス方法について実習を行い、自験例のエビデンスについて調べて発表させている ・医療情報全般

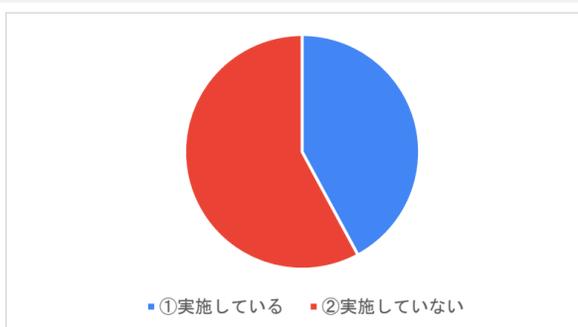
1-4. (1) 医療情報部門を学部あるいは病院に設置していますか。

【選択肢】	回答数
①はい	19
②いいえ	10



1-4. (2) 上記(1)で「①はい」を回答した場合、同部門による授業の実施状況を選択して下さい。

【選択肢】	回答数
①実施している	8
②実施していない	11



	臨床実習	臨床実習以外(1年次)	臨床実習以外(2年次)	臨床実習以外(3年次)	臨床実習以外(4年次)	臨床実習以外(5年次)	臨床実習以外(6年次)
実施の有無	7	3	2	0	1	6	1
平均時間数	2.7	40.2	16.5	0.0	45.0	12.1	2.0

(3) 上記(2)で「①はい」を回答した場合、教育の概要を記載して下さい。

【医療情報システム】
<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習オリエンテーションにおいて医療情報に関する講義を行い、臨床実習では学生が電子カルテ記載(教員の承認により確定)を行っている。 ・本学病院における医療情報システムの概要について理解を促し、併せて個人情報の取り扱いについても学ぶ。 ・大学附属病院で運用している医療情報システムについて教授している。 ・医療情報を管理し、利用するために必要な知識を学び、医療情報システムの利用法・制限・注意点を理解する。 ・(歯科医療情報システム) 歯科医療における情報の特性を理解し、歯科医療情報を適切に処理・活用する能力を修得する <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院の部門であり、その部門による講義は実施していない。 ・法律や医療保険制度、医療経済などの初歩を理解する。 ・臨床実習のオリエンテーション時に指導を行っている。 ・教養科目の情報教育、歯学部での医療情報教育、さらには臨床実習前実習での実地訓練と、3名の大学病院医療情報部職員兼務者が担当。 ・(歯科診療文書) 日本における歯科医療保険制度の概要を理解し、適切な診療を実施するための基本的業務を理解する ・患者データの管理の重要性および管理が不十分だった際に社会に与える影響について講義および端末操作により理解する。

1-5. (1) 「情報・科学技術を活かす能力」に関する教育を行う上で課題はありますか。

【選択肢】	回答数
①はい	26
②いいえ	3



(2) 上記(1)で「①はい」を回答した場合、該当する課題を選択して下さい

①	教育者へのファカルティ・ディベロップメント	17
②	教育者の不足	18
③	学習教材の不足	15
④	その他	10

(3) 上記(2)で「④その他」を回答した場合、概要を記載して下さい。(自由記述)(200字以内)

【概要】

【学修者】

- ・学生のICTリテラシーを一定基準に早期に揃えることが必要（高校までの授業での差があるし、個人の興味に差がある）。
- ・高等学校までに学んだ情報科学技術に関する技能・知識・習熟度の個人差がコロナ渦の遠隔授業経験・取組の違いでさらに加速した。

【指導者】

- ・オンラインでのコミュニケーションに関する教育が不十分である。
- ・学生が情報を利用する際に剽窃をしないよう指導するのが難しい。
- ・多くの教育者が、「情報・科学技術の活用」に関する知識と技術の学習経験が少なく、最新の知識や技術を学生に教授することが困難である。各教員に対する教育が課題と考えられる。

【環境】

- ・対面で一斉に授業を行うには情報機器（端末）が不足している。

【時間】

- ・時間の不足
- ・講義時間数の不足

【内容の不明確さ】

- ・情報・科学技術を活かす能力について、歯学教育において必要とされる内容として統一された明確な方向性が示されていないと思われるため、具体的な教育内容の検討や教育へ反映させることが難しい状況にある。
- ・「情報・科学技術を活かす能力」に関する教育についてはカリキュラムとしては系統だっておらず、手探りでの学習になっている。

2. 「総合的に患者・生活者をみる姿勢」に関する教育の課題と実態についてお尋ねします。

参考) 令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム(素案)で「総合的に患者・生活者をみる姿勢」は下記のように定義されています。

個人と社会のウェルビーイングを実現するために、患者、生活者の心理及び社会文化的背景や家族、地域社会との関係性を踏まえ、説明責任を果たしつつ、総合的に患者、生活者を支える歯科医療を提供していく。

2-1. (1) 「総合的に患者・生活者をみる姿勢」に関する教育を教養科目(準備教育)で実施していますか。

【選択肢】	回答数
①はい	19
②いいえ	10



(2) 上記(1)で「①はい」を回答した場合、教育の概要を記載して下さい。

【概要】

【講義・実習】

- ・歯科医療人間学ⅠとⅡで、2年間実施している。
- ・医療における歯科医療の位置づけとその内容および科学としての歯科医療を包括的に理解させると共に、医療人としての自覚を惹起させることを目的とした講義や実習を行う。
- ・患者の処置前、術前の全身管理に対する講義を行っている。社会における医療、歯科医療について講義を行っている。

【コミュニケーション】

- ・異文化コミュニケーション、コミュニケーション入門。
- ・コミュニケーションスキルを身につける、他職種連携と地域包括ケアの知識を身につける。
- ・医療人間学演習で福祉施設、歯科クリニック、大学病院、AEDなどの研修を通じて高度な倫理観・人間性を身につけるだけでなく、患者さんとの信頼関係の構築ができるようなコミュニケーション能力の涵養を図る。

【見学・体験】

- ・スタッフの一員として病院見学を行う、治療見学を行う。
- ・入学後間もない時期に、医療現場を体験する。
- ・専門的知識の乏しい1年次に地域歯科医療の最前線である開業歯科医院および病院歯科等へ出向き、先入観のない視点から歯科医療を見つめ、今後の専門教育への動機付けとする。また歯科と連携を図らなければならない多職種(看護師、栄養士、作業療法士など)の業務を体験、理解する。

【倫理】

- ・歯学の社会における存在意義、位置づけと多職種連携の重要性、倫理と社会的責任について概説し、基本的人権や医療に関する患者の権利保護について学ぶ。
- ・歯学部で行っている教養科目「〇〇道場」において、ジェンダー教育や倫理教育を行っている。

【その他】

- ・口腔医学の理解、各診療科の理解。
- ・生命科学および歯科医学の広がりや深さ、歯科医学を学ぶための態度など、歯科医学を実践していく上で必要な知識・態度等を学習する。
- ・健康と病の心理社会的な背景を理解し、Well-beingを実現するかかわりや健康教育を創造する力を涵養する。最終課題として行動科学的アプローチを応用した健康行動支援プログラムを独自に制作し、そのプログラムの運用を通して、「人間をケアする」ことの意義を考える。

- ・私立大学では、大学設立の目的、使命に基づいて「建学の精神」があり、その実現のための基本方針としてアドミッション・ポリシー(入学者受入方針)、ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)、カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)が示されている。「建学の精神と社会生活」では、〇〇大学歯学部生として、その内容を理解し、学生生活の基礎を学ぶ。さらに、歯科医療の歴史を学び教養を付け、生命の尊厳を学び医療人としての倫理観を学ぶ。また、医科歯科医療センターを知ること、病院実習に対する目標を作り、国際性を身につけるためのプログラム、卒後の生涯研修といったことを理解することで、〇〇大学歯学部での特徴ある学習を理解し、学習に対するモチベーションを築く。

- ・医療者教育導入系科目として、歯学部入学直後の学生が理解しておくべき医療者に求められている役割、医療に関わる社会的背景、最近の医療事情等について広く触れ、医療者を志すものとしての基盤形成を促す。授業は、臨床系の診療科が中心となり分担当する。

- ・通年科目の地域医療入門において、地域包括ケアシステム、医療保険と介護保険制度、医療サービス、高齢者の生活、在宅医療、保健医療福祉におけるリハビリテーションの概念とあり方、矯正医療、など多方面から社会システムと生活を学修する。

- ・人間が健康の保持・増進・回復を目的として行う保健行動に関わる社会的要因、文化的要因、心理的要因について概説する。また、現在、医療の現場で用いられている「人間が自らの意志で行動変容できるように促す」行動科学の理論とモデルを紹介する。医学的な知識に加えて行動科学の基礎理論を学び、人間の行動を科学的に捉える基礎知識を会得する。

- ・生活をとりまく家族・地域・産業。

【授業テーマ】

【コミュニケーション】

- ・医療現場に触れるための基本的なコミュニケーションや日常習慣の重要性を学習する。
- ・異文化コミュニケーション、コミュニケーションの概念、認識コンピテンス。

【実習・見学・体験】

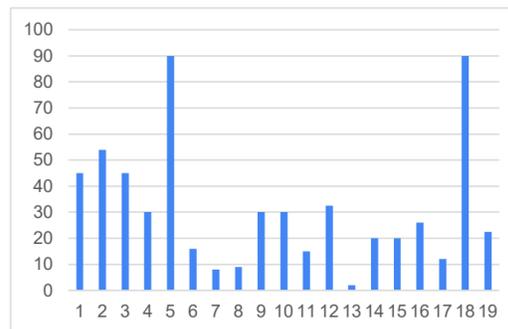
- ・病院見学・体験実習。
- ・ファンダメンタルスキル実習(コミュニケーションスキル)、地域包括ケア学。
- ・総合ガイダンス、福祉施設研修、歯科クリニック研修、大学病院研修、AED講習。

・歯科医療に関する専門知識は持ち合わせていなくとも医療現場を体験することによって、歯科医師となる覚悟と関心を早期に認識し、その後の学習へ動機づけて、能動的、問題解決的な自己学習態度を身につける。

【その他】

- ・口腔医学の概念の理解、臨床や基礎医学研究の場の認識 等
- ・歯学系各分野の研究内容および各診療科での診療内容に関する概要を知る。また、ハンセン病療養所や社会福祉法人を見学し、現場を直接見ることで、医療人としての自覚を促す。
- ・医科と歯科の連携について、タバコと口腔疾患—禁煙を目指して、薬害被害の現状と課題について、人権・ハラスメントについて考える、人権・同和問題について考える他
- ・医の倫理入門、ジェンダー教育、薬物中毒・災害対策
- ・歯科医学概論、歯科医学史、医療コミュニケーション、心とメンタルヘルス、人の老化を考える
- ・医療行動科学Ⅱ
- ・建学の精神と社会生活
- ・将来の医療者としての基礎を構築するために、患者や社会が、歯科医師や医療に求めている役割を理解するとともに、歯科医学、歯科医療に関わる様々な視点や問題点を認識する。
- ・術前・術中・術後の管理、よき医療者、よき歯科医師とは
- ・医療連携体制の中で在宅医療を担う、在宅チーム医療に積極的に活躍する医療人の役割を理解し、多職種協働による患者や家族の生活を支える観点からの医療の提供者となるべく、基本的な知識、技能、態度を醸成する。
- ・医療における社会・行動科学 ※科目名
- ・臨床現場、多職種連携、歯科医師像
- ・グローバル社会、生活、家族、環境

授業時間数
平均32.8時間(最大:90時間、最小:2時間)



【所属】

【基礎講座】

- ・組織学
- ・総合歯学教育学講座 【2】
- ・基礎教育系（化学）
- ・衛生学講座
- ・薬理学講座
- ・教養教育

【臨床講座】

- ・保存
- ・補綴
- ・口腔外科 【5】
- ・小児歯科 【3】
- ・矯正歯科
- ・予防歯科
- ・歯科放射線
- ・総合診療 【2】
- ・画像診断学
- ・訪問歯科口腔ケア科
- ・歯周病学講座 【2】
- ・歯科麻酔学講座 【2】
- ・有歯補綴咬合学講座 【2】

【非常勤・外部】

- ・非常勤講師 【2】
- ・外部講師 【2】
- ・学外講師

【その他】

- ・歯学部 【4】
- ・医学部 【2】
- ・薬学部
- ・保健医療学部
- ・日本語学、心理学、感染学、衛生学
- ・言語情報学
- ・学術研究院医歯薬学域歯学系及び大学病院（歯科系）教員
- ・歯学科教員他
- ・医学部法医学
- ・COデザインセンター、キャンパスライフ健康支援・相談センター
- ・外国語学部
- ・歯科衛生科
- ・歯科クリニック、大学病院、人間基礎科学
- ・人間科学科心理学・行動科学分野
- ・協力歯科医院院長

【目標】

【コミュニケーション】

- ・人間性豊かな歯科医師となるために、大学で学ぶ目的を明確化し、歯科医療の現場にふれ、基本的なコミュニケーションや日常習慣の重要性を認識する態度、知識および技能を習得する。
- ・患者、生活者を理解し良好な信頼関係を構築する能力を修得する。
- ・歯科医療人にとってのコミュニケーションの重要性について説明できる。
- ・コミュニケーション能力および指導力の高い歯科医師となるために、コーチング法を通じてコミュニケーションスキルの基本的知識・態度・技能を身につける。

・歯学に対する学習意欲を高める、自ら積極的に行動する態度を身につける、患者さんと歯科医師との信頼関係の重要性を認識する、障がい者診療について学ぶ、コミュニケーション能力を身につける、幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな質の高い医療人を育成する、実際の医療現場などの編集を通じ、医療現場での実際の雰囲気を理解する、フィールドワークの観点から、医療現場を観察する。

【意識・態度】

- ・医療人に必要なprofessionalismを学ぶ
- ・医療人としての自覚と、口腔医学の概念を学ぶ。学部・病院の体験を通じ、指導的立場に立つものとなる自覚を強めるとともに口腔医学に係る課題を理解する。
- ・歯学生として医療人を目指し学習するための意識と態度の習得。
- ・生命科学および歯科医学の広がりと深さを理解し、社会との関係を知るために、必要とされる基本的な知識と態度を理解する。
- ・医療者に求められる知識、態度、倫理観を説明できる。
- ・歯科医療の歴史を学び教養を付け、生命の尊厳を学び医療人としての倫理観を学ぶ。
- ・患者の立場になって、患者や家族の訴えをよく聞くことを実施できる。
- ・医療職として必要な態度をもつことができる。

【役割】

- ・医療の基本的な立場を理解する。
- ・歯学の社会における役割について概説できる。
- ・歯科医師としてのキャリアを構築できる基本的能力を身につける。
- ・医療者に必要な社会的役割を説明できる。
- ・誠実な外科系医師になること、社会における医療、歯科医療の役割を理解すること。

【その他】

- ・患者中心のチーム医療の意義と多職種連携について概説できる。
- ・生命倫理について概説できる。
- ・人権に関する様々な問題について概説できる。
- ・大学生活全体を通じて自律的な学びの姿勢を確立し、今後の大学での学びを確かなものにするために、高校までとは異なった学習の姿勢や方法の概略、自律的な大学生活を送る方策の概略を把握することを目的とする。
- ・理論を系統立てて組み立て、Well-being支援に応用することができる
- ・大学が目指す人材育成を理解できる。
- ・病院実習に対する目標を作り、国際性を身につけるためのプログラム、卒後の生涯研修といったことを理解する。
- ・医療者が認識しておくべき歯科医学、医療にかかわる問題点を説明できる。
- ・患者が居住する地域の中で自分らしい生活を送るために必要な支援体制と歯科医師に求められる役割について理解するために、将来の臨床に必要な他職種連携と地域包括ケアの知識を身につける。
- ・病院外での医療行為を知るために、社会生活環境と医学的・社会的視点における保健・医療・福祉の関係を学ぶ。在宅高齢者の思いを把握し、生活や健康にかかわる問題とともに患者のQOLを踏まえた倫理的問題を多様な視点による討議により抽出し、学生チームとして対応策を考え、提案できる能力を修得する。
- ・患者や家族の不安や心身の痛みを十分に理解することを実施できる。
- ・言葉と態度から、患者や家族に安らぎと自立をもたらすことを実施できる。
- ・社会、文化、心理的要因により健康観が異なることを理解できる。
- ・健康と環境の関連について説明できる。
- ・個人が保健行動を実行するための一般的条件を列挙できる。
- ・主要な保健行動に関する行動科学モデルを説明できる。
- ・行動科学モデルを、個人、集団、医療など、種々の場面に適用できることを理解できる。
- ・歯科医療を理解し、専門教育に興味をもつ。
- ・社会的に歯科医師に求められているものを議論できる。
- ・各自の将来の歯科医師像を想像することができる。
- ・患者中心の多職種連携を体感する。
- ・グローバル社会における問題点の考察及び関連英語語彙力の涵養。

【方略】

【講義】 【10】

①本講義は、大学（歯学部）での学びを確かなものにするために、高校までとは異なって、「教わる授業から自ら学ぶ授業」という学習の姿勢や方法を身につけられるよう構成されている。各講義は、そのテーマに応じてアクティブ・ラーニングを含む適切な授業方法で行われる。大学では一般に講義形式の授業が主になるが、本講座では、講義を聞き、その主題についてノートを取り、グループで討論をし、その経過・まとめを口頭で報告したり文章でレポートすることなどの学習方法も取り入れて実践される。それらを通じて、「自ら学ぶ」姿勢を身につける準備をして、今日、大学生が社会から求められている「知的技法」の一端を身につけることを目指している。

②総合的に患者をみる望ましい態度や姿勢について、経験を交えて述べる。等

③基本的にオンデマンドの動画配信形式にて実施する。全期間を通して自学自習、グループ学習を行う。

- ・配布プリントを用いて、グループおよびペアによる能動的な学習。

・生命科学および歯科医学の広がり和社会との関係を知るために、ヒトが加齢して行くことで起こる変化、疾病や、心とメンタルヘルスなど、歯科医学に深く関わる一般教養を理解する。

- ・グループワーク、ダイアログ、プレゼンテーション、創造学習

【見学】 【2】

・歯学系各分野・診療科教員および学外講師による講義に加え、歯学部や大学病院及び各外部医療施設の見学および体験学習を実施する。

・福祉施設研修、歯科クリニック研修、大学病院研修、AED講習会で患者さんと施療者の言動を研修し、現場スタッフから直接指導を受け、また一般救急講習について学ぶ。

【実習・演習】【4】

- ・実習（ロールプレイ、SGD）
- ・少人数（8～10名）グループによるTBL形式実習として実施する。

- ・実習
- ・演習

【その他】

- ・レポートの提出
- ・小テスト

・人の行動や意思決定に関わる社会的要因、文化要因、心理的要因、およびそれら要因間の相互作用に関する知識を会得し、行動科学理論の医療への応用方法を理解することにより、医療人として患者と対応する際に、患者の課題を理解し、効果的に関わる方法を選択できるようにする。

・受け入れ歯科医院へ学生が出向き、指定の時間を診療室での見学を行い、診療設備、歯科医師-患者-スタッフ間でのコミュニケーションの重要性を観察する。また、地域の歯科医療の実態や歯科以外のコメディカル・コデンタルの業務を見聞する。

【評価】

【レポート】 【8】

①課題レポート②課題レポート（100%） 全出席を原則とするが、やむを得ず欠席した場合は、各教員が指定した項目についてレポート提出を行う。欠席し、かつレポートの提出がない場合は、1回につき最終得点から15点減点する。③事前・事後レポート、最後の発表会の内容及び最終報告レポートを加味して評価する。また、授業への貢献度も評価の対象とする（観察記録）。

・毎回の授業における体験学習での気づきや問題解決学習のための課題の提出、および期末レポート課題（健康行動支援プログラムを作成）により総合的に評価

【試験（複合）】

- ・プレゼンテーション50%、記述式試験50%で評価する。
- ・モジュール試験、アクティビティ（実技）
- ・ケースプレゼンテーションなど

・各授業後に実施される小テスト、レポートの提出、および授業の受講態度、出席状況を加味して総合的に評価する。各回の評価点（100点満点に換算）の平均で60点以上を合格とする。

・講義後に小テストを実施し、感想など記述させているが、納得して聞いているように思われる。期末試験の中に含めて評価を行っている。

・オンデマンド講義の出席確認は、各回の出席票、課題、授業評価アンケートのいずれか提出をもっておこなう。各回の指示に従うこと。グループ討議・実習態度・接遇技能・ポートフォリオ等のサマリーを参照し、年間を通して授業中の態度、課題、筆記試験などにより評価する。

・定期試験（70%）と提出物（30%）で評価する。

【出席】

- ・出席
- ・原則全出席であり、実習・授業態度およびレポートを加味して評価する。

・授業への参加の姿勢、特にグループワーキングを＜協同力＞ルーブリックで、グループワーキングの発表を＜プレゼンテーション力＞ルーブリックで、提出したレポート（読書レポートを含む）等は＜文章力＞ルーブリックでそれぞれ評価する。

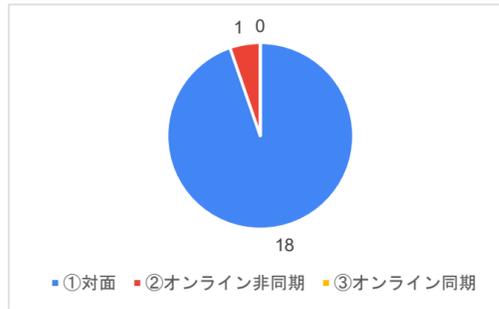
・観察記録、客観試験

・授業や研修への取り組み姿勢・態度（60%）、レポート（40%）

・体験学習中の受講態度、提出された接遇日誌、グループセミナーおよび全体討論への参加態度、分担者からのA～Eの5段階評価によって総合的に評価する。

インフラ（主たるもの）

【選択肢】	回答数
①対面	18
②オンライン非同期	1
③オンライン同期	0



2-2. (1) 「総合的に患者・生活者をみる姿勢」に関する教育を教養科目（準備教育）以外で実施していますか。

【選択肢】	回答数
①はい	21
②いいえ	8



(2) 上記(1)で「①はい」を回答した場合、教育の概要を記載して下さい。

【概要】

【コミュニケーション】

- ・ 歯科医師としてふさわしいコミュニケーションに必要な基本的知識・態度・技能を身につける。高齢者および要介護者に対する臨床で必要な知識を習得する。
- ・ 歯科医療従事者として健康や病気をつくる人間行動への洞察を深めると共に、健康行動の実践や行動変容のための効果的な患者支援を学ぶ。さらに、模擬患者参加によるシミュレーション教育により、良好な医療コミュニケーションと医療面接のスキルを身につける。
- ・ 歯科医療行動科学で現代社会における医療の問題点について考え、新しい医療人を目指して、単なる知識、技術の伝達だけでなく、それらに裏付けされたコミュニケーション能力の育成、態度教育、倫理教育、他職種連携教育を行う。
- ・ コミュニティ・コミュニケーションを問うことから、仕事と社会を「つなぐ」知と視野を獲得する。
- ・ 対人コミュニケーション論、医療コミュニケーション基礎論

【意識・態度】

- ・ 国民の健康的で文化的な生活を保障するために社会保障制度があり、社会保障制度を円滑に運営するために協働する職種の一つが歯科医師であることを認識する。
- ・ 各科目の授業内容として盛り込むだけでなく、「アクティブラーニング科目」（2017年より設置）および「フロンティア科目」（フロンティア基礎科目は2018年より3年生対象、フロンティア発展科目は2020年より5年生を対象）などにおいて、患者や地域住民のニーズを迅速・的確に把握する深い洞察力、医療人としての広い視野と感性、ならびに、豊かな人間性の涵養を目的として実施している。
- ・ 医療の原則や歯科医師としての基本的態度などの人文科学的な医療知識をはじめ、感染対策や医療安全、歯科関連法令などの社会科学の医学知識を習得するとともに、社会の動向に合わせて変化する社会と口腔医学の関わりを理解する。
- ・ 将来の地域医療を担当する歯科医師として、自分の診療形態を実現するために、各自が仮想診療所（私の診療所）を想定して、具体的にそのプロセスについて必要な諸条件について学年縦断で諸教科を段階的に学びながら、得られた知識、技能、態度を基に仮想診療所の開設を通して、自ら学ぶ力と地域で活躍できる医療人に必要な能力を身につける。
- ・ 科目名（D2在宅医療を支えるNBMと倫理、D3在宅チーム医療と倫理TBLⅢ）臨床における倫理上の問題を明らかにし、解決するためのアプローチ法を修得するとともに、自らの医療・ケアの行動の基盤となる姿勢や倫理性を省察し、今後、臨床倫理を実践するための礎となる専門的価値観の涵養を目指す。

【実習・見学】

- ・ 後期高齢者、要介護高齢者の介護現場を見学し、患者の問題点を抽出する。そして、その問題を解決するために少人数グループでディスカッションし、解決方法を検討する。
- ・ 附属病院での患者体験・病院見学実習ならびにPBL実習を通して、患者の悩みや苦しみを理解し、患者本位の歯科医療を実践できる歯科医療人を育成することをめざす。
- ・ 臨床実習において医療面接や処置時に患者を総合的にみる姿勢を養っている。

【グループ学習】

- ・ 医療現場で実習を行う際に、倫理的課題を孕む事例に気づき、自分なりに検討する視点を持つことができるようになるために、非常勤講師によるロールプレイ主体の授業を含め、医療現場における倫理的課題について、事例を題材にした学部混成の小グループ学習を行い、医療者としての対応の難しさを実感するとともに、チーム医療の基盤を形成する。
- ・ 超少子高齢社会において必要となる、あらゆるライフステージに対応した全人的歯科医療のための基礎的知識を習得する。

【その他】

- ・ 3年時に歯科医療人間学Ⅲを実施。
- ・ 地域住民のニーズに合致した医療や多職種連携を理解し、全人的医療を実現させる総合診療、地域包括ケア、そして地域共生社会の重要性を認識できるようにする。与えられた患者医療情報を全人的・総合的に分析することにより、正しい診断、治療法の選択、治療計画の立案について理解し包括臨床実習に繋がる全人的総合診断の態度と技能の基本を修得する。診断治療に限らず、社会と医療の関わりについても学ぶ。
- ・ 臨床実習開始前の第4学年次に必要な実践的能力（知識・技能・態度）のそれぞれの到達目標を達成するための学習方法について学ぶ。
- ・ 医療コミュニケーション、心理学、法学、医の倫理、社会福祉学、行動科学、地域医療について1、2年次に教養科目として教育している。

・歯学部カリキュラムマップでは、知識・態度・技能領域に加え、プロフェッショナリズム・リテラシー獲得のための総合領域という科目分類を設けている。当コースは第1学年の初期から医療従事者としてのプロフェッショナリズムを意識させることを目的としている。そのために、経験豊富な歯科医師、歯科医師以外の保健医療従事者、さらには医療を受ける側からの視点による講義を通年にわたり展開する。これらにより、専門分野を本格的に学ぶ前の歯科医師になることへのモチベーションの維持向上を図り、さらにここで学ぶ複合的な知識を歯科学学生としての自らの成長に活用するためのリテラシー取得につなげることをも目的とする。

・医学・歯科医学を統合的に理解して、全人的な歯科医療を行うために、健康寿命の延伸に向けて進められる地域包括ケアの中で、高齢者を中心とした安全な歯科医療の展開と多職種連携について学び、医療人としての適切な態度のもと、統合された知識と基本的技能を身につけ、患者のライフステージおよび全身状態と患者や家族の心理・社会的な背景を踏まえて、科学的根拠に基づいた医療の実践について学ぶ。それにより、医学・歯科医学を統合的に理解して全人的な歯科医療を提供するために必要な基本的知識と技能を修得する。

・地域包括ケアシステムをはじめとする医療・保健・介護・福祉の連携や、医療連携のシステムについて知識を修得する。
 ・具体的な事例についてJonsenらの4分割法を用いて臨床倫理についてのグループディスカッションを行い、歯科治療に留まらない対応方針を検討する。

【授業テーマ】

【コミュニケーション】

- ・1、2年時に学習した歯科医療人間学を発展させたもので、医療現場でのルールを踏まえた上で医療面接におけるコミュニケーションスキルを学習する。
- ・歯科医療コミュニケーション実習、高齢者歯科学。
- ・医療コミュニケーションのポイント、歯科心身症患者との医療コミュニケーション、SOAPに基づく診療録の記載方法、禁煙指導、模擬患者実習。
- ・第4年次に必要なコミュニケーション能力について涵養し、将来の医療人として自身の立場をより明確にするための精神的な能力と技能を身につける。
- ・コミュニケーション、対人コミュニケーション、ヘルスコミュニケーション、医療コミュニケーション、人間関係、倫理・プロフェッショナリズム、実務経験。

【倫理】

- ・臨床倫理（医療系統合教育科目）
- ・医療倫理観・医療安全、チーム医療、地域包括ケアシステム、健康長寿社会などの多様なニーズに対応できる知識・姿勢と実践できる能力、また、フロンティア精神および国際的視点からの歯科医療を実践・遂行する能力を獲得する。
- ・医療人としての高い倫理観や人間性・協調性を醸成するために、医師・歯科医師に求められる医療倫理を学修する。

【実習】

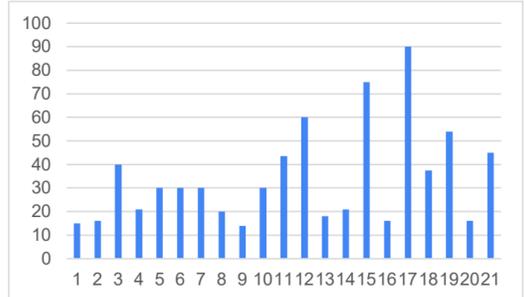
- ・臨床実習
- ・病気を抱えながら在宅で暮らす高齢者の生活と健康を家族が支援する場面で直面しうる問題をテーマに、医歯薬保健医療学部連携のTBLを実施する。
- ・患者に医療情報を伝える方法、心理学に基づく基礎知識と対人関係の理解、医療業務に関わる法律と法体系、歯科医療に関わる福祉、地域医療の観点から患者の背景を考える能力、歯科医療人としての基盤となる倫理観、人間の行動に関わる理論とヒューマン・スキルに関する知識・技能・態度を習得する。

・「地域包括ケアと高齢者の歯科診療」講義を踏まえ、地域包括支援センター実習、介護保険施設実習、食物物性実習の3つの実習を通じて、単純想起にとどまらない実学としての知識、技能、態度を学修する。

【その他】

- ・高齢者の身体的・精神的状況に応じた口腔の健康維持・増進が課題であり、目の前にいる高齢患者の問題点を抽出し、解決方法を検討する。
- ・患者体験を通じて、患者本位の歯科医療について考察し学習する。
- ・異分野融合型歯学、先端歯科医療、再生医療、食と健康、口腔ケア・リハビリテーション、医療・介護・福祉における他職種連携、地域包括ケアシステムや災害医療における対応など、これからの歯学・歯科医療において、緊急性・重要性の高い領域について学ぶ。
- ・社会と歯科の関わり、歯科医療倫理、インフォームドコンセント、健康論、総合診療計画、チーム歯科医療、これからの歯科医療、障害者医療、顎口腔の機能回復
- ・歯科行動科学
- ・地域社会と歯科医療Ⅰ
- ・自身が歯科医師になってから社会にどのように貢献できるかを考察する。
- ・総合診療・地域医療、「課題総合セミナー(全人的総合診断)」、「課題総合セミナー(包括医療統合教育)」
- ・歯科医学概論 ※科目名「地域歯科医療とチーム医療」 ※テーマ(講義毎に設定しているテーマの内、一部抜粋)
- ・医学・歯科医学を統合的に理解して全人的な歯科医療を提供するために必要な社会歯科学・医事法制を扱う。
- ・医療人としての高い倫理観や人間性・協調性を醸成するために、医師・歯科医師に求められる医療倫理を学修する。
- ・実践知

授業時間数
平均35.9時間(最大:90時間、最小:14時間)



【所属】

- 【基礎講座】**
- ・組織学
 - ・薬理学 **【3】**

- ・社会歯科学分野【4】
- ・口腔生化学分野
- ・国際歯科保健学分野
- ・歯科法医学情報学分野
- ・歯科医用情報学分野
- ・歯科生体材料学分野
- ・社会口腔保健学
- ・衛生学講座【4】
- ・歯学教育学講座
- ・保健衛生学
- ・臨床口腔病理学
- ・臨床教育管理運営
- ・生化学講座
- ・口腔病理学講座
- 【臨床講座】
- ・インプラント再生補綴学分野
- ・歯科補綴学分野【4】
- ・予防歯科学分野
- ・小児歯科【3】
- ・加齢歯科学分野
- ・障害者歯科学
- ・全部床義歯学
- ・包括支援歯科医療部
- ・口腔外科学講座【2】
- ・矯正学講座【2】
- ・歯科麻酔学講座
- ・歯科放射線学講座
- ・訪問歯科口腔ケア科
- ・歯周病学講座
- ・冠橋義歯・口腔インプラント学
- ・歯周歯内治療学
- ・咬合再建補綴学
- ・口腔医学講座
- ・予防歯科学講座
- 【非常勤・外部】
- ・外部講師
- ・非常勤講師【3】
- 【その他】
- ・歯学部【3】
- ・病院教員
- ・歯学部附属病院
- ・日本語学
- ・医学研究院、歯学研究院、薬学研究院
- ・本学歯学研究院の全分野
- ・学術研究院 医歯薬学域
- ・クリニカルクラークシップ開発学分野
- ・外国語学部
- ・大学院医歯学総合研究科、病院
- ・附属病院の歯科医師
- ・大学教員、聴覚障害者情報センター職員、NPO法人自死遺族支援ネットワークRe代表、自然と暮らしの学校「手つなぐ」職員、斜面地・空き家活用団体つくる代表

【目標】

- 【コミュニケーション】
- ・人間性豊かな歯科医師となるために、大学で学ぶ目的を明確化し、歯科医療の現場にふれ、基本的なコミュニケーションや日常習慣の重要性を認識する態度、知識および技能を習得する。
- ・インフォームドコンセントの重要性を認識できる。
- ・医療行為においてコミュニケーションの大切さを認識できる。
- ・患者との良好な信頼関係を築き、円滑なチーム医療を行うために、歯科医療上の種々の対人関係を理解し、歯科医師としてふさわしいコミュニケーションに必要な基本的知識・技能・態度を身につける、高齢者および要介護者に対する歯科診療の困難性・環境・全身的特性・心理的特性を理解し、臨床で必要な知識を習得する
- ・信頼関係を確立するために、コミュニケーションの重要性を理解し、その能力を身につける。
- ・患者中心の医療コミュニケーションを実践する、SOAPに基づく診療録記載を行う、歯科心身症に関する知識を得る、他職種連携を体験し、専門家の立場としてコミュニケーションを行う
- ・価値ある行動特性を発揮できるというコミュニケーション並びにヘルスコミュニケーションの基本的能力を身につけ、その後の日常生活でのコミュニケーション経験や体験とともに、専門基礎教育における医療面接、インフォームドコンセント、指導（患者指導）、カウンセリング、安全管理（リスクコミュニケーション）などの習得に際して、この能力をさらに深めていくこと
- 【倫理】
- ・医療現場で実習を行う際に、倫理的課題を孕む事例に気づき、自分なりに検討する視点を持つ
- ・患者の心理および地域社会との関係性を踏まえ、説明責任を果たしつつ、総合的に患者を支える歯科医療を提供することができる優れた人格を有する医療人の基盤形成を目指す。
- ・最善の歯科医療を提供するために、倫理的な選択を行うための技法に関する知識・技能・態度を身につける。

・本人とその家族にかかわる基本的な倫理的問題を4分割法（医学的対応、祖母の意向、QOL、周囲の状況）の視点で分析でき、問題の複雑さや問題内の相互関係（全体像の把握）を整理し、対応策をグループで立案し、提案できる。

・臨床科目を学習する前に歯科医師として必要な倫理観、社会背景を学ぶ。

【高齢者】

・患者中心の医療および根拠に基づいた医療の概念を理解し、後期高齢者、要介護高齢者の問題点を抽出し、解決するための方法を検討できるようになる。

・要介護高齢者に対する歯科訪問診療と摂食嚥下支援を行うために必要な知識を習得する。口腔衛生状態の維持向上、ならびに口腔機能の維持回復を目的とする口腔のケア・リハビリテーションにおいて、歯科医療専門職種が医療・介護・福祉など他領域の専門職種と連携を行う必要性を理解する。口から始まる健康長寿社会の実現に向けて、歯学・食品学・栄養学などの最新の臨床および研究から、食や健康の入り口となる口腔について理解する。社会との関わりの中で歯科医療・口腔科学の役割について、地域包括ケアシステムや災害医療における対応を理解する。

・人生100年時代を迎えつつある我が国において、歯科医師として地域包括ケアシステムに参画し、地域の包括的な支援・サービスの一環として歯科医療・介護を提供するために、歯科と医療・保健・福祉・介護との連携に必要な知識・技能・態度を身につける。

・日本の医療の問題とその対策について説明できる。総合診療やプライマリ・ケアの機能とその重要性を説明できる。よく遭遇する歯科疾患について説明できる。高齢者へのケア、終末期ケアについて説明できる。患者中心の医療を説明できる。地域医療を実施するのに必要とされる態度を身につける、家族志向のアプローチを説明できる、地域志向のプライマリ・ケアを説明できる、効果的な患者教育を説明できるなど

【その他】

・患者の権利を認識できる。

・患者との信頼関係の重要性を認識できる。

・医療行為において優しさ、気遣いの重要性を認識できる。

・患者の置かれている心理的状況を説明できる。

・人文科学的な医療知識や社会科学的な医学知識を習得し、社会の動向に合わせて変化する社会と口腔医学の関わりを理解する。

・歯科医療従事者として、健康や病気をめぐる人間行動について行動科学的に洞察力を深める。そのために、ストレス概念と心身反応を理解し、医療面接や相談に役立つ支援スキルを身につける。これらを歯科医療の実践に応用し、現場における患者援助や効果的な医師—患者関係づくり、スタッフ間における良好な人間関係づくりの基礎を身につける。

・①TBLを理解し、実践できる。②歯科医院を取り巻く社会的背景などを理解し、説明できる。③口腔機能管理、口腔衛生管理の重要性を理解し、実践できる。④プレゼンテーションができ、プレゼンテーションを聞いてその評価ができる。⑤チームで議論して立ち上げた歯科医院と地域社会とのつながりを説明できる。

・社会保障の一翼を担う歯科医師になる。

・臨床実習開始前までに身に付けておくべき必須の実践的能力（知識・技能・態度）のそれぞれの到達目標について、必要な学習方法を理解し研鑽することを目的とする。

・歯科医学は医学の1領域である。それ故、歯科医療を行う者は口腔領域に特化した歯科医学と同時に医学全般に普遍的な知識、技能、倫理観を有することが求められる。それらを育成するためには問題抽出・解決能力に裏打ちされた自己開発能力が必要となる。さらに、歯科医師として社会貢献するためには、現在歯科医師に求められている社会的要請を理解し、その要請に応えるための生涯学習、多職種連携をはじめとする基本的態度を身につけることが必須である。このため、初年度に歯科医学を構成する種々の概念を各専門分野の観点から多角的に学ぶことにより、歯科医学・医療の本質的理解への到達に必要な学修プロセスを理解できるようになる。

・歯科医師として適切な歯科医療を実践するために、社会歯科学に関する知識を修得する

・一般目標GI0: コミュニティにおける多様な人々との対話の重要性を理解し、対話に臨みその力量を形成していく構えを身につける。個別行動目標SB0s①多様な価値観を持つ人で形成される、コミュニティとは何かを提起する。②異なる経験を持つ人の生きざまを想起し、その社会的位置にへの新たな認識を獲得する。③コミュニティのかかわりの中に生きる自己を新たに認識する。④スキルの獲得する知にとどまらない、対話と経験から獲得する知を理解する。⑤対話への新たな経験と、さらなる対話への構えを獲得する。⑥市民としての歯科医師のありようについて考える。

【方略】

【講義】

- ・演習
- ・講義形式で教本に準じてスライドと資料を用いて履修する。
- ・五大学連携事業（課題解決型高度医療人材育成プログラム「健康長寿を育む歯学教育コンソーシアム」で行われたコア科目をベースに講義を行う。
- ・フロンティア科目にて、プロフェッショナルリズム、医療倫理、コミュニケーション、チーム医療、地域医療などについて、学生全員に対する講義を実施する。また、希望者に対して、災害医療、障害者医療、高齢者医療の演習・集中ゼミなどを実施している。また、本年からSDGsの17の目標に向けた講義（外部講師）により、個人と社会のウェルビーイングの実現、および、生活者の心理及び社会文化などに関する授業を展開する。

- ・講義毎にテーマを設定し、そのテーマを専門としている講師が講義を行う。

- ・スライドを用いた講義

【グループワーク】

- ・講義、グループワーク、ロールプレイ。

- ・教科書と配布資料を利用したパワーポイントでの講義を中心に行うが、グループディスカッション、PBL、ディベート等の方法を取り入れることがある。

- ・講義および施設見学、症例検討（グループディスカッションおよび発表会）。

- ・実習、グループ学習（PBL）

- ・社会と口腔医学の関わりや、歯科医療が地域社会から求められる役割を、講義と臨床実習を通じて理解する。また、多職種連携をグループワークを通じて体験する。

- ・ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習等

- ・4学部混成による小グループPBL形式としてシナリオから課題（疑問）を発見し課題（疑問）を解決するために、学修項目を決めて信頼できる情報を基に自己主導型学修を行い、グループで共有した上で、課題（疑問）を解決する演習を通じて、問題発見、問題解決のプロセスを学ぶ。

- ・授業、小グループに分かれ模擬患者を対象に実習を行う

- ・グループ学習、相互実習

- ・1）実習（介護施設実習・地域包括実習・食物物性実習）、PBL、グループディスカッション、グループ発表2）講義、クリッカー・Google Formsでのプレ・ポストテスト、ディスカッション3）講義、PBL（SGDによる問題解決学習）

【その他】

- ・ダイアログ、体験学習、演習、シミュレーション学習、創造学習

- ・実習（ロールプレイ、SGD）

- ・ポートフォリオの記載と内容について口頭試問を実施する。

- ・日本の医療の問題とその対策、プライマリ・ケアの機能とその重要性、プライマリ・ケアにおける臨床診断学、高齢者へのケア、終末期ケア、患者中心の医療、地域医療を行うにあたっての態度（シネメディケーションによる）、家族志向のアプローチ、地域志向のプライマリ・ケア、効果的な患者教育方法、在宅医療、基本的診断法、医療面接と患者の心理、全身疾患と口腔症状、治療方針・計画など

【評価】

【試験】

- ・観察記録、客観試験
- ・レポート評価、定期試験
- ・期末試験
- ・臨床実地試験の評価に準じる。

【出席】

- ・出席（70%）、課題レポート（30%）
- ・授業への出席状況、レポート、および、ディスカッションなどから総合的に評価する
- ・出席、実習態度、発表会による総合評価。

- ・授業における体験学習への積極的参加度（講義内での発言やフィードバックシートによる評価）、問題解決学習でのレポート課題を総合的に評価する。

【レポート】

- ・レポートで評価

- ・出席、レポート等から総合的に判断する。

- ・講義（ユニット）毎に提出するレポートより評価する。レポートは得点化し、全講義の平均点を講義の評価点とする。届出のない欠席、レポートの不提出はゼロ点として平均を算出する。レポートは採点后にコメントを付して返却する。

- ・ポートフォリオ

【複合的に評価】

- ・ビデオ撮影による医療面接、記述試験、客観試験により総合的に評価する。

- ・個人に対するMCQテスト（IRAT）：30%、凝縮ポートフォリオのルーブリック評価：20%、体験シート、学習成果のサマリー等の評価：50%

- ・小テスト 10点、小グループ討議への参加態度、積極性 15点、発表の内容とグループの協働 30点、ポートフォリオ 45点

- ・レポート（90%）と模擬患者からの評価（10%）

- ・筆記試験・ミニテストによる形成的評価、授業への出席状況・個人およびグループ課題・レポートを総合的に評価。

- ・受講態度、提出物等から総合的に評価する。提出物については返却時にコメントする。

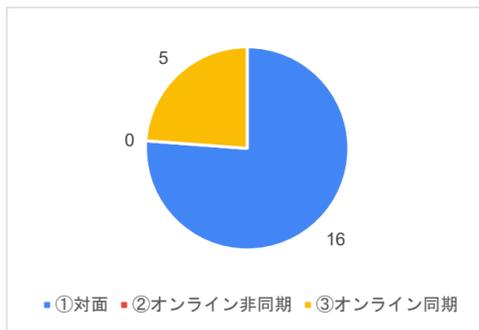
- ・客観試験、論述試験、レポート、観察記録

- ・1）実習前の個人作業のプロダクト（形成的評価）、物性測定の実習終了時相互評価（形成的評価）、観察記録、PBLのプロダクト、事後のグループワークのプロダクト（総括的評価）2）講義毎のプレ・ポストテスト（形成的評価）、定期試験（総括的評価）3）6年一貫したポートフォリオ（形成的評価）、観察記録（総括的評価）、定期試験（総括的評価）

- ・出席、レポートで評価する

インフラ（主たるもの）

【選択肢】	回答数
①対面	16
②オンライン非同期	0
③オンライン同期	5



2-3. (1) 臨床実習中に全人的・地域的な視点も含めた「総合的に患者・生活者を見る姿勢」に関する教育を実施していますか。

【選択肢】	回答数
①はい	20
②いいえ	9



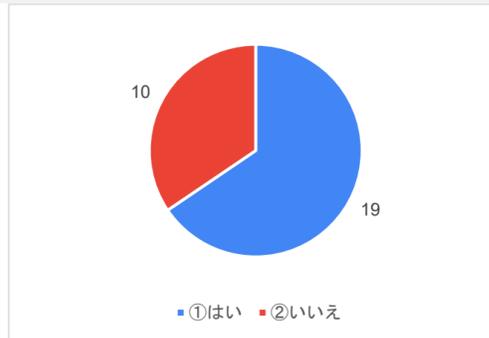
(2) 上記(1)で「①はい」を回答した場合、教育の概要（実施している診療科、内容、醸成させる工夫等）を記載して下さい。

【概要】

- ・臨床実習は臨床系すべての診療科が担当していただき、学生を担当医の一人と位置づけて行う診療参加型臨床実習を運営している
- ・【実施している診療科】医療支援歯科治療部【内容】がん等に罹患し、闘病する患者に対応するチーム医療のスタッフの一員としての歯科医師の役割を理解し、がん口腔支持療法および周術期における口腔機能管理に関する知識・手技の習得を目的としている【醸成させる工夫】超急性期医療が展開されている現場を目の当たりにするとともに、がん手術を予定している患者および患者家族とのエスコート実習を実施している。
- ・5年次前期の臨床実習期間中の連携医学Ⅰの授業で、他の医療機関への照会や紹介を行うための手続き、病診連携・病病連携・医科歯科連携、チーム医療における多職種連携と歯科医師の役割や医科疾患合併患者の歯科治療時の注意点について教授している。
- ・〇〇市保健福祉センター実習では、乳幼児の全身と歯科の健康診査に参加する実習を通して、地域保健における生涯を通じた口腔保健推進を学習する。さらに、〇〇市オープン病院実習では、地域中核病院の医療現場を体験し、そこでの周術期口腔管理を中心とする歯科の役割を学習する。さらに、口腔支持療法科では、入院患者の周術期口腔管理を体験し、闘病生活と戦い抜く患者の口腔管理を考える事により、全人的な口腔保健・歯科治療を考える学習としている。
- ・総合歯科1学生に実際に患者を配当し、担当する診療参加型臨床実習および介護施設への訪問診療をしている（通常実施しているが、現在は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、中止している）
- ・総合歯科診療部、全人的、総合的歯科学に関する講義実習。医科との連携、全身管理を学ぶ。
- ・口腔総合診療部、障害者歯科治療部、顎口腔機能治療部、咀嚼補綴科、口唇裂・口蓋裂・口腔顔面成育治療センター、有病者や障害者、加齢に伴う問題を抱える方や先天性疾患を有する方への横断的かつ総合的な治療を体験する。
- ・訪問診療への参加、見学
- ・口腔診断科・口腔保健科、初診・再診患者を総合的に診断する。歯科治療に影響を及ぼす全身疾患を熟知した上で、的確な診断を下し、治療計画を立案できる応用能力を育成する。
- ・障害者歯科、包括支援歯科医療部、訪問歯科診療、施設や在宅の患者さんの歯科診療補助
- ・訪問歯科診療への参画
- ・口腔衛生学部門、内容：病院での望ましいチーム医療の活動を理解するために、病棟で複数の学部学生が連携して患者を担当し、チーム医療の実践に必要な知識、技能、態度を修得する。
- ・臨床教育管理運営分野、咬合再建補綴学分野が中心となって学外実習として開業歯科医院での実習、訪問診療、介護施設などにおける実習を実践している
- ・摂食リハビリテーション科、訪問歯科診療（摂食嚥下機能評価等）のオンライン研修
- ・高齢者歯科学講座の教員が実習生を関連病院に引率し訪問歯科実習をおこなっている。
- ・口腔リハビリテーション診療科、訪問歯科診療への参加、在宅患者とのコミュニケーションの経験
- ・初診外来および総合歯科外来にて全人的な教育及び地域連携を含めた教育を行っている。
- ・訪問診療に同行させ、治療内容のみならず、要介護者を介護する家族、患者をとりまく環境などの問題点を抽出し、ディスカッションを行うことによって総合的に患者・生活者を見る姿勢が身につくようにしている。
- ・離島医療・保健福祉実習に臨床実習生全員を参加させ、歯科医院に限ること無く医療保険福祉施設に赴き、地域医療、高齢者対応、多職種協働を学ぶ。
- ・診断室にて患者対応教育を行いながら実習してる

2-4. (1) 全人的・地域的な視点も含めた「総合的に患者・生活者をみる姿勢」に関する教育を行う上で課題はありますか。

【選択肢】	回答数
①はい	19
②いいえ	10



(2) 上記(1)で「①はい」を回答した場合、概要を記載して下さい。

【概要】

【システム】

- ・診療科、講座間で、教育方針の統一を行うことが難しい。
- ・次回コアカリ項目への対応については現在検討中。
- ・大学病院としては訪問診療を行っておらず、実際に訪問診療を実施する機会が極めて限られるため、地域的な視点を醸成するのが難しい。
- ・すべての学生に対して、担当医として患者のマネジメントを行うことの重要性を認識させることの難しさ
- ・大学病院単独では、地域包括ケアや在宅診療を学ぶ機会が少ない。
- ・臨床実習は、各専門科目に分かれて実習を行っているが、総合的な視点から教育を行うことを考える必要がある。
- ・医・歯・薬・保健医療学部の複数学部から構成される学生グループが、病棟ごとに1週間、同じ患者を担当する。学生は連携・協力し、密接な情報共有と討議により担当患者の課題を抽出し、課題の解決に必要な最善の医療を検討するが。
- ・学際的なテーマであり、何をどこまで御請うべきか判断することが困難である。
- ・カリキュラムや実習方法の策定が困難
- ・均質な症例・診療項目の提供
- ・本学では低学年時に本テーマに対する教育を行っているが、学年が上がるにつれ、CBTや国家試験に向けた知識習得メインの教育となり、卒業時に学生の全人的・地域的視点が薄らいでいる可能性はある。
- ・大学病院は位置づけとして地域包括ケアシステムの一番外にあるため、全人的・地域的という視点からは、学外施設（歯科診療所や地域包括支援センター、高齢者施設、訪問看護ステーションなど）での実習・研修が必要となる。学生数に応じた学外施設とある程度均質な実習内容が必要となるが、それらの確保が大きな課題である。

- ・医療現場では細分化されているので総合的に患者を診る機会が少ない

【教員の不足】

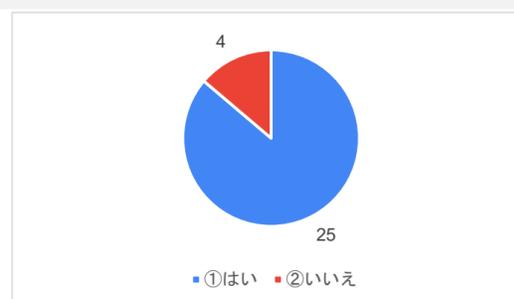
- ・どの教員が当該教育をするのか適当な教員がいないこと。
- ・プログラムの構成、指導者不足

【コロナ関連】

- ・現在、新型コロナウイルス感染拡大対策として、学生の学外研修を中断していることから、知識的な視点を含めた教育が不足している。
- ・ポストコロナのニューノーマルの地域保健の現場では、まだ事態が沈静化しているとはいいがたく、流行の状況によっては実習の実施自体が危ぶまれる状況にあり、その都度に対応を考える必要がある。
- ・実習先の確保（現在、Covid-19の影響で実習先に赴いての実習は行っていない）
- ・協力施設の確保が困難であること。コロナ禍において受け入れ施設が減少していること。

2-5. (1) 学外実習を実施していますか。

【選択肢】	回答数
①はい	25
②いいえ	4



(2) 上記(1)で「①はい」を回答した場合、概要を記載して下さい。

【概要】

【見学】

- ・臨床実習の一環として、大学周囲の地域にある障がい者施設へ訪問診療の見学に出向く。
- ・学外の診療所における地域医療に関する見学実習（1日）
- ・学外連携医療機関での歯科治療見学
- ・訪問診療への参加、見学
- ・「福祉と介護」における介護老人保健施設見学、「臨床実習」における老人ホーム等高齢者施設見学実習・〇〇歯科診療所実習
- ・自治体の運営する介護研修センターでの介護実習及び見学。地域の歯科診療所が行っている訪問診療へ帯同し、体験実習及び見学を実施。
- ・①特別養護老人ホームでの見学実習を実施していたが、新型コロナウイルス感染症のまん延に伴い中断している。②他大学栄養学科との合同実習を実施している。③地域包括支援センターでの実習を準備していたが、新型コロナウイルス感染症のまん延に伴い、実施が遅延されている。

【体験・経験】

- ・歯科医療体験・見学演習（メディカルコンソーシアム見学）
- ・地域医療・地域保健（在宅医療（訪問歯科診療を含む）、地域包括ケアシステム）を経験する。
- ・臨床実習協力施設において訪問診療に参加する機会を設け、在宅での歯科治療や、多職種連携を体験している。また医学部附属病院歯科診療室において、周術期管理等を体験している。
- ・3歳児検診への参加

【診療介助・実習】

- ・ 歯科診療所、病院歯科および歯科口腔外科での診療介助・見学実習；病院歯科が行っている訪問歯科診療時の診療介助・見学、栄養指導；介護老人保健施設における介護実習
- ・ ①2年次早期臨床体験実習（ECE）、②5年次後期臨床体験実習（LGE）、③6年次在宅訪問歯科診療、④5年次フロンティア発展科目での歯科器材メーカーへの見学
- ・ ○○市保健福祉センター実習では、乳幼児の全身と歯科の健康診査に参加する実習を通して、地域保健における生涯を通じた口腔保健推進を学習する。さらに、○○市オープン病院実習では、地域中核病院の医療現場を体験し、そこでの周術期口腔管理を中心とする歯科の役割を学習する。

- ・ 2年次後期に地域体験実習、3年次後期に地域医療学実習、また臨床実習期間に地域医療機関への体験実習を実施している
- ・ 保育園・幼稚園、市町村保健センター、障害者施設などでの歯科保健の実習、地域包括ケアにおける退院時カンファレンスへの参加

- ・ 臨床実習で開業歯科医院での実習を行う（Covid-19のため現在は中断）
- ・ 1・5年生「看護・介護体験実習」 2年生「歯科専門体験実習」 5年生「地域医療体験実習」
- ・ 離島医療・保健福祉実習に臨床実習生全員を参加させ、歯科医院に限ること無く医療保険福祉施設に赴き、地域医療、高齢者対応、多職種協働を学ぶ。

【その他】

- ・ 臨床実習の後半で、各自1回実施しているが、ここ数年はコロナ対策で中断している。
- ・ 施設訪問
- ・ 大学病院では補完できない地域臨床現場を体験することで、地域医療、高齢者医療、在宅・訪問歯科診療の重要性を理解することを目的とする。
- ・ 科目名（D2福祉と健康、健康と医療）要介護高齢者に対する歯科保健制度や日常の介護技術と口腔ケアの実践方法を他学部および学外福祉施設実習、インターネット検索実習を含めて学習する。
- ・ 地域包括ケアシステムを踏まえた病診・病院連携、多職種連携によるチーム医療
- ・ 医学部病院での研修が予定されていたが、COVID-19で受け入れが許可されず中断している。

(3) 上記(1)で「①はい」を回答した場合、実習期間、施設の種類の種類、実習内容を記載して下さい。(自由記述) (200字以内)

実施期間	
1日未満	5
2, 3日	2
4日~1ヶ月未満	5
1ヶ月	3
2ヶ月	1
4ヶ月	1
6ヶ月	1
10ヶ月	1
1年	4
その他	1

【施設の種類の種類】

- ・ 障がい者施設

【実習内容】

【見学】

- ・ 訪問診療担当歯科医師と共に施設に訪問して、訪問診療の見学を行いながら、施設内の見学を行う。
- ・ 学外の施設等では口腔ケアや食事介助の体験を通して、また訪問歯科診療の同行では見学・補助補助を介して生活者をみる姿勢を学習する。

・ 見学【2】

- ・ 診療見学実習
- ・ 歯科診療所、病院歯科および歯科口腔外科での診療介助・見学実習；病院歯科が行っている訪問歯科診療時の診療介助・見学、栄養指導；介護老人保健施設における介護実習
- ・ 当該施設において本学教員が行う摂食嚥下に関する治療、口腔ケアなどの見学
- ・ ①・②歯科診療の見学、③訪問歯科診療の見学、④最新の歯科器材の見学・体験
- ・ 訪問診療内容の見学
- ・ 在宅または社会福祉施設、介護老人保健施設等での臨床見学ならびに補助
- ・ 自治体の運営する介護研修センターでの介護実習及び見学。地域の歯科診療所が行っている訪問診療へ帯同し、診療体験及び見学を実施。
- ・ ①特別養護老人ホーム施設職員からの説明、入所者とのコミュニケーション、施設内での歯科診療の見学（延期中）②栄養学科との合同食物物性実習・PBLを行い他職種を理解し、連携を意識する。③地域包括支援センター職員からの説明、多職種の職務内容見学

【参加・体験】

- ・ 在宅・訪問歯科診療実習に関する講義、シミュレーション実習を事前に行い、臨床講師等の直接指導のもと、実際に在宅・訪問歯科診療の介助や基本的歯科処置を行っている。
- ・ 介護支援、急性期病院における周術期口腔管理、摂食嚥下リハビリ、救急医療を経験する。
- ・ 1歳6か月児健康診査に参加し、乳幼児の発達とそれを支える行政の仕組みを理解し、歯科健康診査に参加する事により小児の口腔内状況や診査時の反応、更に口腔保健指導の内容等を学習する。
- ・ 訪問診療に同行し、在宅での歯科治療や多職種連携を体験している。また、医学部附属病院歯科診療室において周術期管理などを体験している。
- ・ 前記施設へ学生を派遣し、その場でスタッフと同じように行動し、対象者への対応を学んでいる。
- ・ 保育園・幼稚園、市町村保健センター、障害者施設などでの歯科保健の実習（親子健診の見学、1歳6カ月健診の見学、3歳児歯科健診の見学、障害者歯科検診の見学など）、地域包括ケアにおける退院時カンファレンスへの参加。
- ・ 施設実習で実際の高齢者の介助の補助ができる。基本実習で身につけた技術を、実際の介護の現場で活かすことができる。

・介護福祉施設では口腔ケアなどの実習の他、職員の補助などを通じて施設の実際を経験する。開業歯科医院では実際の地域医療の現場を経験し、終了時には医療面接の現地試験を受験する。

・口腔内清掃、TBI
 ・「看護・介護体験実習」学内・外施設での実習を第1学年において実際に体験することにより全人的医療とその意義を理解できる。また、介護体験実習を第5学年で再体験することにより全人的医療ならびにチーム医療とその意義をより深く理解できる。【歯科専門体験実習】歯科医療の現場を通して歯科医学に必要な基本的な知識、態度を学び口腔・顎顔面領域の診察、検査、診断および予防に関する基本的事項を修得する。【地域医療体験実習】学外連携教育プログラムの一環として実施する第5学年地域医療体験実習を通じて地域における歯科医療の実情を認識できるようになり、その意義についても理解できるようになる。

・離島医療・保健福祉実習に臨床実習生全員を参加させ、歯科医院に限ること無く医療保険福祉施設に赴き、地域医療、高齢者対応、多職種協働を学ぶ。

・三歳児検診に参加し、記録簿を作成する。

2-6. (1) 学外実習を依頼する際に障壁となることはありますか。

【選択肢】	回答数
①はい	27
②いいえ	2



(2) 上記(1)で「①はい」を回答した場合、該当する障壁を選択して下さい。(複数選択可)

①	教育者へのファカルティ・ディベロップメント	12
②	教育者の不足	11
③	患者からの理解	11
④	学生の移動	20
⑤	その他	16

【その他】

【コロナ関連】

- ・新型コロナウイルス感染のため、学外研修を中断していること。
- ・コロナ禍で学外実習の受け入れが難しくなっている。
- ・ポストコロナのニューノーマルの地域保健の現場では、まだ事態が沈静化しているとは言いがたく、流行の状況によっては実習の実施自体が危ぶまれる状況にあり、その都度に対応を考える必要がある。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大
- ・コロナワクチンの接種状況
- ・新型コロナウイルスにより、学外での実習が難しい。
- ・学外で実習を行う場合、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、受け入れ可能な施設を探すことは難しい。
- ・実習先の負担、及びコロナ禍による学外施設での実習中止
- ・コロナウイルス感染症による協力施設の減少

【システム】

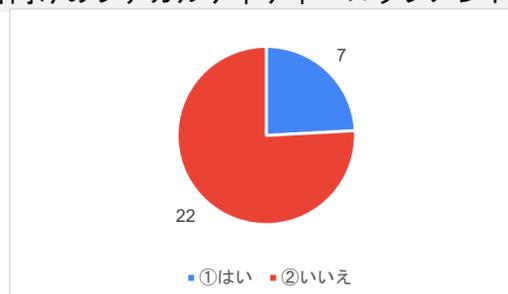
- ・スケジュールの調整（受け入れ施設の都合と本学の実習スケジュールとのすり合わせが必要）
- ・協力を依頼する施設の選択や指導体制の確立、実習期間と臨床実習全体とのバランス
- ・学生が学外実習で医療事故を起こしたときの責任は、派遣先（臨床講師等）が負うことを派遣（臨床講師等の任命）の条件にしていること。
- ・実習先の数の確保
- ・新規で対象施設を開拓する際、既に医学部（看護含む）が先行して実習を行っており、施設の指導体制が構築できないとの理由で実習施設を見つけることが困難。

【移動】

- ・通いやすい範囲での実習先の確保
- ・学外への移動のための交通手段と、実習時の事故などに対する保険など

2-7. (1) 学外実習をする際に実習先の指導者向けのファカルティディベロップメントを実施していますか。

【選択肢】	回答数
①はい	7
②いいえ	22



(2) 上記(1)で「①はい」を回答した場合、概要を記載して下さい。

【概要】

- ・患者が嫌な思いをしないよう、服装容儀及び言動をルール化する。
- ・学外実習受け入れ施設の担当者や学内の関係する教員とで反省会を開催することで、学生の実習状況や問題点などを抽出・確認している。また、受け入れ施設に対しては、学内の学生教育の状況を説明し理解・協力頂いている。相互の実習に対する要望をだして今後の実習に役立てている。
- ・学外実習を担当する臨床講師に対し、ファカルティディベロップメントとして在宅・歯科訪問診療教育等のシンポジウムを開催している。
- ・臨床実習協力施設の指導者を指導医として登録し、学内のFDへの参加を求めている。
- ・近隣大学の臨床実習の内容と、その中での学外実習の位置づけについてFDを行っている (Covid-19のため中断)
- ・先方大学教員に対し、歯科領域でのニーズを把握してもらうと同時に、歯科への要望等を情報交換し、実習に反映している。
- ・医歯薬保健学科合同の離島医療・保健福祉実習を行い、実習協力施設の指導者と教育目標に関して情報共有を行っている。

(3) 上記(1)で「①はい」を回答した場合、実施時期・回数についてご記載下さい。

実施時期	回数
4月	3回
2月	1回
9～10月および年度末	2回
不定期	2回
臨床実習Ⅰの修了時期	1回
4月から実習開始前の10月までの間	1回
毎年2月下旬～3月上旬	1回

3. 診療参加型臨床実習についてお尋ねします。

3-1. (1) 歯学生が診療に参加することについて大学病院ではどのように説明・同意を得ていますか。全て選択して下さい。

①	院内掲示	22
②	病院ホームページに掲載	11
③	書面による包括同意	16
④	書面による個別同意	12
⑤	口頭同意	12
⑥	説明・同意なし	0
⑦	その他	2

【その他】

- ・現在は、教員が口頭で説明し、同意を得ている。令和4年7月からは、包括同意書及び個別同意書を整備し運用を開始する予定である。
- ・診療録への記載

(2) 上記(1)で「①院内掲示」を回答した場合、どこに掲示しているかを全て選択して下さい。

①	病院入口	18
②	各外来待合	8
③	各外来室内	2
④	入院病棟入口	1
⑤	入院病室内	0
⑥	廊下	3
⑦	その他	2

【その他】

- ・ロビー（初診受付脇）
- ・学生専用の診療室待合

(3) 上記(1)で「③書面による包括同意」「④書面による個別同意」を回答した場合、不同意の際の対応について全て選択して下さい。

①	診療中止（他院へ紹介）	0
②	診療継続（学生の関与なし）	20
③	診療継続（学生は見学のみ）	5
④	その他	1

【その他】

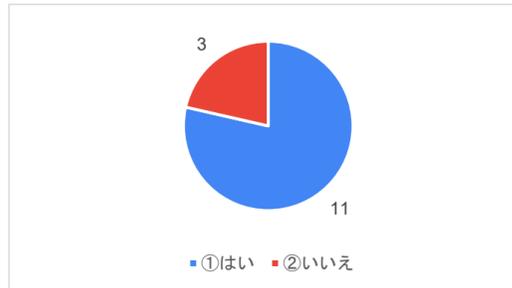
- ・院内専門診療科へ案内する
- ・書面による同意書で、「すべて可」「問診・見学のみの可」「問診のみ可」「見学のみ可」「すべて不可」のそれぞれ選択できるようになっている。「すべて不可」の場合は、学生の関与なしの対応をしている。
- ・不同意の際には、患者さんの希望によって、学生は見学のみか、学生の関与なしかを決定している。

(4) 上記(1)で「③書面による包括同意」「④書面による個別同意」を回答した場合、不同意の割合についてご記載下さい。

①	1割未満	15
②	2割	3
③	3割	0
④	4割	0
⑤	5割	2
⑥	6割	0
⑦	7割	0
⑧	8割	0
⑨	9割以上	0
⑩	不明	1

(5) 上記(1)で「⑤口頭同意」を回答した場合、その内容を記録していますか。

【選択肢】	回答数
①はい	11
②いいえ	3



(6) 大学病院に臨床実習に関する患者からの相談を受け付ける窓口（既存の患者相談窓口等の活用を含む）はありますか。

【選択肢】	回答数
①はい	25
②いいえ	4

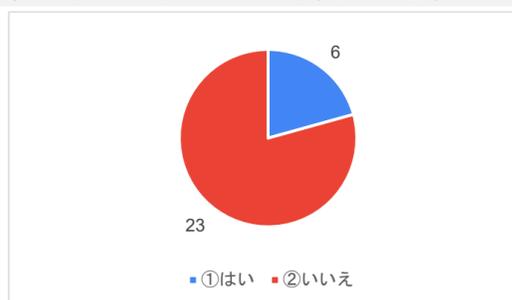


(7) 上記(6)で「①はい」を回答した場合、年間何件相談があるかご記載下さい。

①	ほとんどなし	10
②	10件以下	8
③	11-50件	3
④	51-100件	1
⑤	101件以上	1
⑥	不明	2

(8) 大学病院において、歯学生が診療に参加することについて病院外の患者さんや地域へむけて広報活動をおこなっていますか

【選択肢】	回答数
①はい	6
②いいえ	23



(9) 上記(9)で「①はい」を回答した場合、どのような方法をおこなっていますか。全て選択して下さい。

①	SNS	1
②	取材対応	0
③	プレリリース	0
④	その他（自由記述）	5

【その他】

- ・ 病院、学部HPでの紹介
- ・ HPでの表記
- ・ 病院HP
- ・ 大学附属病院ホームページ
- ・ ホームページに掲載

(10) 上記(1)で「①はい」を回答した場合、その財源はどうしていますか。

①	病院予算	4
②	学部予算	1
③	大学予算	3
④	その他(自由記述)	1

【その他】

・学部、病院の両方

(11) 歯学生が診療に参加することについて学外施設ではどのように説明・同意を得ていますか。全て選択して下さい。

①	施設内掲示	4
②	施設ホームページに掲示	1
③	書面による個別同意	5
④	口頭同意	8
⑤	説明・同意なし	0
⑥	把握していない	2
⑦	学外施設で歯学生は診療に参加していない	12

3-2. 以下の歯科医行為について、歯学生在臨床実習で実施している場合、同意をどのようにとっているかについて、選択して下さい。

		①この歯科医行為を実施していない	②院内掲示のみ(書類による同意なし)	③書面による包括同意	④書面による個別同意	⑤口頭同意	⑥説明・同意なし
(1)	局所麻酔(表面麻酔)	2	0	13	3	12	0
(2)	局所麻酔(浸潤麻酔)	2	0	12	4	11	0
(3)	局所麻酔(伝達麻酔)	17	0	5	2	5	0
(4)	初診及び再診患者の医療面接	2	0	10	4	12	0
(5)	頭頸部の視診、触診、打診	1	0	13	3	11	0
(6)	口腔内の視診、触診	0	0	13	4	11	0
(7)	歯周組織検査	1	0	12	5	11	0
(8)	咬合紙を用いた咬合接触検査	0	0	12	6	11	0
(9)	小児の口腔内診察	3	0	11	3	12	0
(10)	血圧・脈拍・呼吸・体温・経皮的酸素飽和度の測定	2	0	13	3	11	0
(11)	口内法エックス線画像の撮影と読影	6	1	11	2	8	0
(12)	パノラマエックス線画像の撮影と読影	8	1	10	3	7	0
(13)	治療方針及び治療計画の患者説明	0	0	13	6	10	0
(14)	口腔衛生指導	1	0	12	5	11	0
(15)	コンポジットレジン修復(単純窩洞)	0	0	13	5	11	0
(16)	コンポジットレジン修復(複雑窩洞)	3	0	11	5	10	0
(17)	象牙質知覚過敏処置	0	0	13	5	11	0
(18)	補修修復	3	0	12	6	8	0
(19)	感染根管治療(単根歯)	2	0	11	4	11	0
(20)	歯周基本治療(スケーリング、スケーリング・ルートプレーニング)	1	0	11	6	11	0
(21)	固定性補綴装置による補綴治療(支台築造、支台歯形成、プロビジョナルレストレーション、印象採得、咬合採得、色調選択、試適、装着)	3	0	12	5	9	0
(22)	可撤性補綴装置の修理	3	0	11	6	9	0
(23)	術野(口腔外及び口腔内)の消毒、清潔操作	3	0	12	5	9	0
(24)	普通拔牙	2	0	11	7	9	0
(25)	抜糸	5	0	11	4	9	0
(26)	フッ化物歯面塗布	2	0	11	4	12	0
(27)	全身疾患を有する患者の全身管理	16	0	8	2	3	0
(28)	障害者(患者家族を含む)の医療面接	15	0	7	4	3	0
(29)	小児への心理的対応	12	1	8	2	6	0
(30)	齲蝕リスク検査	12	0	8	3	6	0
(31)	咀嚼機能検査(主観的評価、客観的評価[咀嚼能率検査、咬合力検査等])	7	0	10	4	8	0
(32)	小児の全身の診察(身体の発育状態、運動機能、言語および生理的特徴)	14	1	7	3	4	0
(33)	インフォームドコンセントの取得	7	0	9	5	8	0
(34)	予防填塞	3	0	10	4	10	0

3-3. (1) Student Dentist の法制化を踏まえて、上記(1)～(36)の歯科医行為の内、臨床実習で行うのが望ましいと思う内容について全て選択して下さい。

(1)	局所麻酔（表面麻酔）	29	(18)	補修修復	25
(2)	局所麻酔（浸潤麻酔）	28	(19)	感染根管治療（単根歯）	28
(3)	局所麻酔（伝達麻酔）	8	(20)	歯周基本治療（スケーリング、スケーリング・ルートプレーニング）	28
(4)	初診及び再診患者の医療面接	29	(21)	固定性補綴装置による補綴治療（支台築造、支台歯形成、プロビジョナルレストレーション、印象採得、咬合採得、色調選択、試適、装着）	27
(5)	頭頸部の視診、触診、打診	29	(22)	可撤性補綴装置の修理	27
(6)	口腔内の視診、触診	29	(23)	術野（口腔外及び口腔内）の消毒、清潔操作	29
(7)	歯周組織検査	29	(24)	普通抜歯	27
(8)	咬合紙を用いた咬合接触検査	29	(25)	抜糸	28
(9)	小児の口腔内診察	28	(26)	フッ化物歯面塗布	28
(10)	血圧・脈拍・呼吸・体温・経皮的酸素飽和度の測定	29	(27)	全身疾患を有する患者の全身管理	12
(11)	口内法エックス線画像の撮影と読影	29	(28)	障害者（患者家族を含む）の医療面接	11
(12)	パノラマエックス線画像の撮影と読影	26	(29)	小児への心理的対応	14
(13)	治療方針及び治療計画の患者説明	28	(30)	齲蝕リスク検査	23
(14)	口腔衛生指導	29	(31)	咀嚼機能検査（主観的評価、客観的評価 [咀嚼能率検査、咬合力検査等]）	26
(15)	コンポジットレジン修復（単純窩洞）	29	(32)	小児の全身の診察（身体の発育状態、運動機能、言語および生理的特徴）	15
(16)	コンポジットレジン修復（複雑窩洞）	22	(33)	インフォームドコンセントの取得	24
(17)	象牙質知覚過敏処置	29	(34)	予防填塞	27

3-4. (1) 臨床実習の実施時期、期間についてご記載下さい。

実施開始時期	実施終了時期	実施期間	
5年次4月	5年次12月	9か月	1
5年次4月	5年次2月	11か月	1
5年次4月	5年次3月	1年	6
5年次4月	6年次4月	1年1か月	3
5年次4月	6年次5月	1年2か月	2
5年次4月	6年次7月	1年4か月	2
5年次4月	6年次9月	1年5か月	1
5年次5月	6年次5月	1年1か月	2
5年次9月	6年次9月	1年1か月	1
5年次9月	6年次10月	1年2か月	1
5年次9月	6年次2月	1年6か月	1
5年次10月	6年次9月	1年	4
5年次10月	6年次10月	1年1か月	1
5年次11月	6年次10月	1年	2

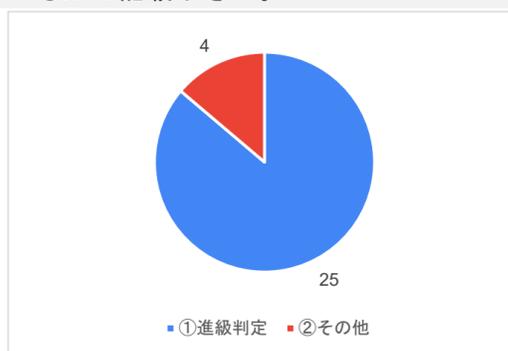
3-5. (1) Post-CC PXの実施時期についてご記載下さい。

実施時期	回答
5年次	1
5年次5月	1
5年次8月	1
5年次9月	1
5年次10月	1
5年次12月	1
5年次12月～1月	1
5年次1月	3
5年次2月	3
5年次3月	2

実施時期	回答
6年次4月, 9月	1
6年次4月～8月	1
6年次4月～9月	1
6年次5月	1
6年次5月～9月	1
6年次6月	1
6年次6月～9月	1
6年次7月	2
6年次8月	1
6年次10月	2
6年次11月	1

3-6. (1) Post-CC PXをどのように活用されているかご記載下さい。

【選択肢】	回答数
①進級判定	25
②その他	4



(2) 上記(1)で「②その他」を回答した場合、その概要を記載して下さい。

【概要】

- ・臨床実習の修了要件【3】
- ・Post-CC PXはCPXとCSXで構成されているため、CSXは4月～9月、CSXは11月頃に実施している（上記回答はCSXの時期）
- ・授業科目「臨床実習」の単位取得要件にしている。
- ・進級判定における総合評価の1つの要素として
- ・Post-CC PXは包括的臨床実習の履修条件の一つとなっている。

3-7. (1) 臨床実習において歯学生に直接教育することのあるスタッフについて全て選択して下さい。

①	教員（大学所属）	29
②	教員（病院所属）	25
③	教員以外の歯科医師（医員・大学院生等）	20
④	臨床研修歯科医	9
⑤	歯学生	4
⑥	歯科技工士、歯科衛生士、看護師	18
⑦	その他（自由記述）	4

【その他】

- ・歯科受付事務
- ・臨床教授
- ・臨床実習において歯学生に直接教育することのできる指導教員および指導医を毎年認定する制度がある。
- ・言語聴覚士、臨床検査技師、歯科技工士

(2) 上記(1)のスタッフについて、人数を記載して下さい。

		0人	1-10人以下	11-50人	51-100人	101人以上
①	教員（大学所属）	0	0	13	11	5
②	教員（病院所属）	0	5	20	3	
③	教員以外の歯科医師（医員・大学院生等）	2	10	12	4	3
④	歯科技工士、歯科衛生士、看護師	1	11	14	3	1
⑤	その他	2	26	2	0	1

【その他】

- ・臨床教授

3-8. (1) 臨床実習において学生の指導に屋根瓦方式（上級医から指導を受けた臨床研修医や歯学生が後輩歯学生を教える仕組み）が用いられていますか。

【選択肢】	回答数
①はい	12
②いいえ	17



(2) 上記(1)で「①はい」を回答した場合、どの診療科で屋根瓦式指導をしているか全て選択して下さい。

①	保存系	7
②	補綴系	7
③	口腔外科系	6
④	総合診療系	10
⑤	その他	2
⑥	把握していない	1

【その他】

- ・ 予防
- ・ 各診療科での統一は図られていない【2】

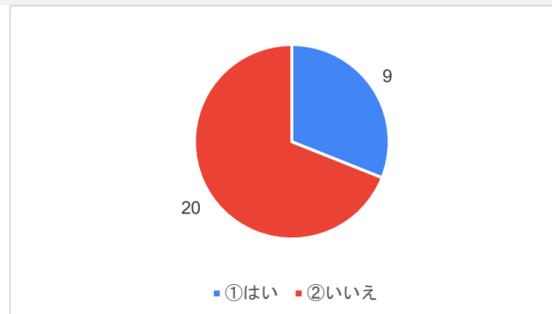
3-9. (1) 歯学生の賠償責任保険（学研災+付帯賠償責任保険[歯学賠]あるいは付帯学生生活総合保険）への加入状況について選択して下さい。

【選択肢】	回答数
①強制加入	21
②強く勧奨	5
③任意	3



3-10. (1) Student Dentistの法制化を踏まえて、今後、臨床実習の内容・方略・評価等を現行から変化させる予定がありますか。

【選択肢】	回答数
①はい	9
②いいえ	20



(2) 上記(1)で「①はい」を回答した場合、今後変更する予定の内容について具体的に記載して下さい。

【内容】

【カリキュラムの変更】

- ・ 臨床実習前の学年から、シームレスに臨床を理解しやすいようなカリキュラムの変更
- ・ 診療参加型臨床実習の充実のため、1口腔1単位の患者追従型の臨床体系の強化
- ・ 診療の一連の流れが理解できるような内容に見直したいと考えている。可能な範囲で自験のケースを増やすことを検討する。
- ・ 総合診療科における担当医(持ち患者)制度の導入

【時期と内容の変更】

- ・ 実習時期と内容の見直し、それに伴う判定基準の見直し

【評価の改善】

- ・ 指導体制の強化、特に評価の改善を実施する予定

【今後検討予定】

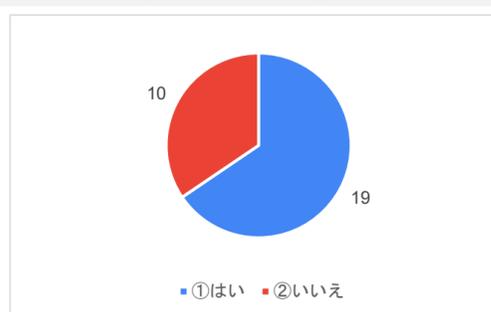
- ・ 詳細については今後検討していく予定です。
- ・ 今後の変化の内容にふまえてその都度検討する予定である。

【その他】

- ・ 診療同意書の書式変更

3-11. (1) Student Dentistの法制化を踏まえて臨床実習を行う際に課題はあると思いますか。

【選択肢】	回答数
①はい	18
②いいえ	11



- (2) 上記(1)で「①はい」を回答した場合、想定される課題と積極的な臨床実習実施につながる対応について考えられることを具体的に記載して下さい。

【課題と対応】

【広報・啓発】

- ・患者からの同意が得られやすいように、全国的にいわゆるStudent Dentistをコマーシャルしていく必要があると思われます。
- ・国民への周知が未熟であり、理想形態には到底なっていないように感じる
- ・いわゆるStudentDentist法制化が国民に認知されていない（例えば、車の免許における仮免で公道を運転できるように）、学生が患者に対してアクシデントを起こした際の対応
- ・法制化でどのように臨床実習を変える必要があるのかについて、まだ不明な点が多く、それが明確になった時点で本学の臨床実習のあり方が決定すると考えるので、その後の実習指導医や患者さんへの周知方法をどうするかが課題となる。
- ・社会的な認知：このような制度が法制化されたことを広く国民に周知する。また臨床実習の協力していただける方にインセンティブを付与する。
- ・患者への啓発活動
- ・積極的な臨床実習の実施のためには、臨床実習の実際と卒後教育の実際について国民に対して透明にすることで理解を得る必要があると思われる。

【患者の確保】

- ・協力していただける患者の確保、対応は難しいと思います。
- ・もし、あるとすれば治療の困難度に対して患者の同意が得られるかどうかである。
- ・できるだけ学生に自験を行わせることが望ましいと思われるが、不可逆的な診療行為において患者の理解と同意を得ることが難しいと考えている。
- ・臨床実習の学生用の患者の確保
- ・いわゆるStudent Dentistによる診療を拒む患者の増加とその対応
- ・患者確保が困難であることに対して、指導医-患者間の信頼関係を元にした屋根瓦方式の実践が重要であると考えられる。

【患者の確保】

【歯科医行為】

- ・Student Dentistの法制化によって認められる歯科医行為の明確化
- ・許容される医行為の範囲の設定：侵襲性の高い不可逆的な医行為を除き、一般的な歯科治療については指導医の監督下で実施する。

- ・何をどこまでやらせるかの明確な基準。臨床実習水準の見直し。

【システム】

- ・患者の同意の下に侵襲性が少ない診療内容を指導医の指導・監督の下に実施する必要があるが、指導医が不足している。また、万が一事故が生じた場合の適切な対応できる体制の構築が必要であること。

- ・技術的な面で担保されているとはいえない。

4. プロフェッショナル教育に関する課題と実態についてお尋ねします。

4-1. (1) 「プロフェッショナリズム」に関する教育を教養科目（準備教育）で実施していますか。

【選択肢】	回答数
①はい	23
②いいえ	6



(2) 上記(1)で「①はい」を回答した場合、教育の概要を記載して下さい。

【概要】

【講義】

- ・情報検索の方法を身につけるとともに、情報倫理に関わる問題について理解する
- ・臨床医科歯科概論
- ・歯科医師の責職や基本的資質を学ぶ。
- ・歯科医療を行う上で必要な医療に関する倫理、接遇やコミュニケーションに関する知識、感染対策を習得する
- ・教養科目の歯学序説において、歯科医師としての心構えや、医療コミュニケーションに関する教育を行っている。
- ・〇〇大学歯学部で歯科医師を目指すため教育方針を理解する。医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズム、歯科医師として求められる基本的な資質・能力
- ・生命・倫理の基本知識を身につける。医療現場に関連した個別テーマの「調べ学習」をとおして、生命・医療倫理の基礎知識と「学び方」の基本を学ぶ。生老病死をめぐる具体的な問題を題材に、生命・医療倫理の原理・原則と基礎概念について調べ、知識を整理する。
- ・歯科医師のプロフェッショナリズムを理解する。
- ・よき医療者、よき歯科医師になるためにプロフェッショナリズムについて学ぶ。
- ・医療倫理学で実際の医療現場で問題となっている事例（患者・医療者関係、安楽死と治療停止など）について学修するとともに、社会における医療の役割などを学際的な観点から幅広く学修する。
- ・医療人に必要な医学の歴史、医師と患者、医療制度そして関連法規を学ぶ。
- ・歯科医師でありながら歯科医療以外の分野で活躍している方の概要講義と、オリンピックメダリストによる目標設定・計画立案についての講義を受講する。
- ・本学の建学の精神である「医療人たる前に、誠の人間たれ」を土台として医療の専門性を身に付けていくために、医・歯・薬・看護四学部が共に学び、考える教養科目を多く開講している。併せて、問題基盤型学習（Problem Based Learning）で実際の医療現場に必要な多職種連携の意識を養い、患者さんと共に生きる医療を展開できる礎となる教育を行う。

・教養ゼミ

【見学】

- ・総合演習1Dのなかで、1年次に病院を見学するアーリーエクスポージャーで実施している。
- ・大学病院における歯科医療の現場を見学し、将来優れた医療者となるため、6年間にわたる学部教育に目的意識を持って取り組むことができるよう、院内各診療科の見学を行う。見学は院内全12診療科、部をグループごとにローテートし、指導歯科医、研修歯科医および5年生（臨床実習生）の管理のもと診療の見学を行う。一連の見学が終了した後は、学生参加型の授業で「医療者としてのあり方」に関する討論を行い、個々の意見を出し合うとともに情報共有を図る。

【体験】

- ・先輩歯科医の多様なロールモデルのキャリアやプロフェッショナリズム体験を共有し、口腔医学を通して社会貢献する歯科医の素晴らしさを理解する。
- ・歯学部が行う教養教育科目「〇〇道場」において、早期体験実習として、病院見学実習および研究室体験実習を行っている
- ・秋実施の初年次体験実習で病院実習を体験することを中心に、通年科目の歯学入門の中で歯科医師の役割、他職種との関わり、地域での歯科医師の役割、医療倫理等を学修する。また、白衣の着用方法、お礼状の作成、患者、スタッフとのコミュニケーションを通じてプロフェッショナリズムの理解につなげる。提出物のやり取りを通してメールの書き方を学修する。

【グループ討論】

- ・与えられたシナリオに対し、各グループで自由に討論する。その中で、具体的な学習項目を設定し、それに基づき、必要な情報を参考資料等で集め、発表および討論を実施する。
- ・新入生相互および教職員との親睦を深めるとともに、各セッションを通じて将来の歯科医療人としての意識を育む。研修を通じて時刻厳守や挨拶の重要性を学び、グループワークのなかで活発な意見交換を交わし、コミュニケーション能力を養う。
- ・医療人に求められる倫理・プロフェッショナリズムについて、具体的な事例についてグループディスカッションを行い、自らを振り返り、自己評価する。

【倫理】

- ・西洋では古来から医師・法律家・聖職者はプロフェッションと呼ばれました。これらの職能団体に属する者が一定の技能や倫理的資質のあることを公言する（プロフェス）ことから来ています。この言葉は今日では職業一般をさすために使われていますが、医療職に高い倫理性の要求されることは今日でもかわりません。そこでこの授業では、生命倫理の基本的な考え方をおさえつつ、いくつかの国際的綱領や文書、ならびに日本の法律を参照しつつ、医療（歯科医療）の倫理を学んでゆきます。

【授業テーマ】

【チーム医療】

- ・チーム医療学演習

【講義】

- ・臨床医学、臨床歯科医学の概要
- ・医療人として世界の常識を身につけるため、医学の基本事項を習得する。

【実習】

- ・病院早期体験実習および研究室見学

【倫理】

- ・情報検索、情報倫理
- ・医療倫理、医療コミュニケーション、感染対策
- ・医療倫理学
- ・医療倫理・生命倫理の誕生と展開、患者－医療者関係、インフォームド・コンセント、医の倫理、医療における原理・原則、安楽死と治療停止、胃の倫理に関する規範、歯科医療と社会、医療の役割
- ・医療人としての高い倫理観や人間性・協調性を醸成するために、歯科医療人としての態度、身だしなみについて理解する。

【意識・自覚】

- ・歯科医の素晴らしさを理解、自らのキャリアとワークライフバランスをデザインする。
- ・グループ発表および討論を通じ、能動的学習とプロフェッショナリズムの自覚を促すことで、アクティブラーニングへの学修段階を導く。
- ・将来の歯科医師として学ぶ自覚を持ち、歯科医師の業務や診療内容を理解し、基礎歯学科目、臨床歯学科目の概要を学ぶことで、歯科医師としての将来像の確立を促す。

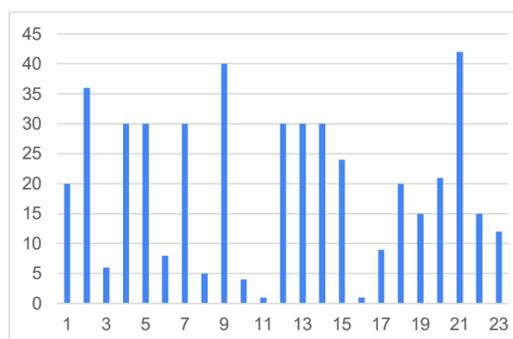
- ・医療従事者としての心構え、医療コミュニケーション
- ・医療者としての態度、プロフェッショナリズム、医療コミュニケーションを滋養する
- ・発展し続ける医学・歯科医学の中で、必要な知識を身につけ、根拠に基づいた医療（EBM）を基盤に患者、家族に最善の医療を提供できる歯科医師になるために、歯科に関連するテーマについて自分の力で課題を発見し、自己主導型学修によりそれを解決するための能力を身につける。

【その他】

- ・大学からのメッセージ、「歯科医療人になるための行動計画」の作成、「誓いの言葉」のまとめ、発表他
- ・オリエンテーション、〇〇歯学部教育理念、教育概要
- ・生命哲学
- ・プロフェッション
- ・医療におけるプロフェッショナリズム
- ・プロフェッショナリズムとは、歯科医学教育、歯科医療診療報酬、歯科疾患と運動系疾患、歯科行政機関、歯科の特殊治療、国防と歯科医療、経済的視点、感染防御、歯科産業界活動、災害歯科医療、スポーツ界のメダリスト
- ・①多職種連携のためのアカデミックリテラシー ②医療倫理学 ③法学 ④心理学 ⑤医療面接の基礎 ⑥医療と法律 ※全て科目名
- ・積極的に研究・学習活動に参加し、知的興味を育む機会および学生と教員とのコミュニケーションを促進する場を提供する

授業時間数

平均20.1時間(最大:42時間、最小:1時間)



【所属】

【基礎講座】

- ・基礎教育系（倫理学）
- ・薬理学講座
- ・生理学講座
- ・教育部
- ・基礎教員
- ・生命倫理学
- ・歯科医学教育開発センター
- ・社会歯科学講座ほか

【臨床講座】

- ・臨床系の教授
- ・保存修復学講座、歯周病学講座、歯内療法学講座、クラウンブリッジ補綴学講座、有床義歯補綴学講座、口腔微生物学講座
- ・歯周治療学、歯科麻酔学
- ・訪問歯科口腔ケア科
- ・歯周病学講座

【非常勤・外部】

- ・非常勤
- ・学外病院、開業歯科医
- ・他大学教員、公的機関勤務医、他大学研究室教員、歯科関連企業員、歯科開業医、ほか
- ・開業歯科医、行政官

【その他】

- ・複数科の教員が科目担当教員として配置されている。
- ・図書館職員、歯学部専任教員
- ・地域連携センター
- ・歯学系教員（10名：基礎系教員4名、臨床系教員6名）。
- ・各診療科・部担当教員および研究科（基礎・臨床）担当教員
- ・歯学部附属病院
- ・全診療科
- ・病院歯科勤務医
- ・歯科病院教員
- ・本学教員
- ・人間科学科哲学分野、人間科学科心理学・行動科学分野、人間科学科法学分野 他
- ・歯学科、口腔保健学科、共通基盤部門

【目標】

【チーム医療】

・他医療職を尊重した円滑なチーム医療を行う(プロフェッショナリズム)。

【知識・態度】

・医療とは何かを理解し、将来の歯科医療人として必要となる知識と態度を修得する
 ・プロフェッショナリズムに基づいた学びの姿勢や日常生活のあり方を身につける。
 ・チュートリアル教育の意義を理解し、自己学習能力、特に情報収集能力や収集した情報の批判的吟味能力を修得する。
 ・将来の歯科医師として学ぶ自覚を持ち、歯科医師の業務や診療内容、歯科医師に求められる基本的資質を理解する。
 ・大学生活全体を通じて自律的な学びの姿勢を確立し、今後の大学での学びを確かなものにするために、高校までとは異なった学習の姿勢や方法の概略、自律的な大学生活を送る方策の概略を把握することを目的とする。

・臨床経験に基づき以下の内容を教授する、医療を専門とする職業人の理念を説明できる、信頼できる社会人、医療人について説明できる、歯科医師の責務を説明できる、〇〇大学歯学部を概説できる、〇〇大学歯学部のアドミッションポリシーが説明できる、〇〇大学歯学部のカリキュラムポリシーが説明できる、〇〇大学歯学部のデプロマポリシーが説明できる。
 ・「あるべき、善き医療者－患者関係」を実現できる力量を備えた医療者を養成するために、生命・医療倫理の基本的態度と知識、考え方を身につける。人間の生老病死にかかわる葛藤状況に直面しても自分で考え、倫理的に妥当な選択を見出せる主体的な判断力を養う。グループによる「調べ学習」とプレゼンテーションの実践をとおして、知識を整理する方法と意思伝達の技法を学ぶ。

・大学病院の歯科医療の現場を、専門知識を持たないに歯学部1年生の段階で体験し、将来の医療者が有すべき基本的な知識、態度を習得する。大学病院歯科の全ての診療科を指導歯科医や上級生とともにローテートして、各診療科で行われる歯科治療や、医療者と患者のコミュニケーションの様子、そこに関わる多職種の活動の一部を垣間見る。これによって、将来の医療者として必要な態度や倫理観の習得、医療現場を支える多職種や患者とのコミュニケーション能力の必要性の理解、歯科医師を目指す意志を鼓舞する。

・歯科大生として、将来の歯科医師として必要な目標を立てるために、社会で活躍する歯科医師の姿を通してその社会的使命を認知するとともに、豊かな人間性の必要性を知り、口腔の健康を通じて人の命と生活を守る歯科医師としての職責と生命の尊厳を理解する。

・歯科医師のプロフェッショナリズム、医療倫理における4原則を説明できるようにする。
 ・将来自分が歯科医師になることを自覚し、学修へのモチベーションを高めることができる。社会および医療における歯学の役割を説明できる。医療倫理について自分の考えを述べるができる。歯科医師会の役割について概説できる。歯科医師の役割、他職種との関わりについて概説できる。地域における歯科診療所の役割を概説できる。

・1. 医学の歴史、世界の医療制度、医師の規範と患者の権利そして関係法規を説明できる。2. 患者のための医療を理解し、歯科医師に必要な素養を身につけることができる。

・専門職である歯科医業を志して入学した学生が、将来国民に良質な歯科医療を生涯にわたり提供できるようになるために、歯科医療の専門従事者として意識を常に持ち続け、歯科医師としての倫理概念を理解し実行するための知識と態度を修得する。

・信頼される歯科医師になるために、大学付属医療機関の機能と、歯科医師として相応しい態度を理解し、歯科医学修得の意欲を向上する。

・これからの生涯にわたる学習に備えるために、歯科医療者に求められている能力を知り、さらに、自らの学習スタイルを理解した上で、事象を多面的かつ深く捉える自己主導型学習・問題解決型学習(PBL)を進めるための基本的な態度・技能・知識を修得し、それを将来のキャリアパスに生かす。

【倫理】

・信頼性の高い情報をウェブサイトから検索できる、情報倫理に関わる問題について説明できる。
 ・①歯科医療に関わる倫理を学んで理解する。②各自が医療職にふさわしい倫理性を身につける。
 ・医療倫理・生命倫理の基本的な概要や問題事例を理解し身につける、医療倫理・生命倫理の概要について、自分の日常生活と関連づけながら学ぶ、グループワークと発表などの参加型の学習を通じて、議論するコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を養う、歯科医学・医療の職業倫理を理解する。

・①問題解決能力の育成とアカデミックリテラシー(大学で学ぶための諸能力)の修得、など。②終末期医療、生殖医療、移植医療等の現状を理解し、どのような点が倫理的に問題になっているかを説明することができる、など。③独自性と多様性の尊重と、個人と社会の相互作用の理解を身に付ける、他など 他、省略。

・医療倫理

- ①生命の尊厳に関係する問題を説明できる。
- ②医療倫理が関係する具体的な場面について列挙できる。
- ③医療に関わる倫理的問題を説明できる。
- ④医療における倫理的配慮および措置の重要性を説明できる。
- ⑤医療情報に関わる倫理および法的問題について説明できる。

【コミュニケーション】

・①同学年の中で円滑な人間関係を構築できる。②卒業までの行動計画をイメージできる。③歯科医療人としての社会貢献を説明できる。

・医療人に必要とされる基本的な知識と態度を身につけるために、生命科学および歯科医学と社会との関係をや医療コミュニケーションを理解する。

・医療コミュニケーション

- ①医療人としての適切な身だしなみ、言葉遣い、挨拶を実践できる。
- ②医療面接における患者とのコミュニケーションができる。
- ③患者の不安・不満や表情・態度の変化に呼応できる。
- ④患者の訴えについて、適切に傾聴することができる。
- ⑤患者のプライバシーへの配慮ができる。

【感染対策】

- ①歯科医療を実施するにあたり必要な感染対策に関する知識を説明できる。

【方略】

【講義】

・講義【8】

・大学（歯学部）での学びを確かなものにするために、高校までとは異なって、「教わる授業から自ら学ぶ授業」という学習の姿勢や方法を身につけられるよう構成されている。早期に歯科臨床や研究の環境に触れ、歯科医師になるに必要な心構え：患者の立場から見た良い歯医者とはどんな歯科医師か。良い歯科医師になるための心構えは何かを学ぶ。

・歯科医学を学ぶための態度や歯科医学に深く関わる一般教養、医療コミュニケーションに関する知識を習得し、歯科医師としての心構えを涵養する。

・スライド、講義内容プリントなどの配布。

・講義で、多様性のある患者のニーズに対応し理想的な歯科医療を実践するために必要な歯科医師に求められる知識、態度、技能が必要であることを教育する。

・座学、プレゼンテーション、実習

・授業、ワークショップ、グループワーク、発表

・90分講義のうち60分を講義とし、残りの時間にプレ、中間、ポストの客観試験を取り入れ、最後に作成した授業記録を提出する（記述式）。

【実習】

・演習【2】

【グループ討議】

・小グループ討論、ビブリオバトル

・スモールグループディスカッション、病院見学

・グループ学習。

・グループワーク、講演、プレゼンテーション、レポート（報告書）の作成

・グループワークとプレゼンテーションおよび講義

・①PBL-WSをグループで行うことで、医療人としての意識が高まり、他職種の役割や責任および多職種を目指す人の考え方を理解し、尊重する態度が身につく、など。②現代医療が直面している倫理的問題点を理解し、対立する諸見解を各自の観点から整理する作業を通じて、自分の立場を明確にすることができるようになる、など。他、省略。

・PBL、SGD・プレゼンテーション、ディスカッション、6年一貫したポートフォリオ

【見学】

・アーリーエクスポージャーとして、病院での診療を見学（オンライン・ビデオ収録等）し、実際の歯科医師としての仕事を解説する。

・大学病院における歯科医療の現場を見学し、将来優れた医療者となるため、6年間にわたる学部教育に目的意識を持って取り組むことができるよう、院内各診療科の見学を行う。見学は院内全12診療科、部をグループごとにローテートし、指導歯科医、研修歯科医および5年生（臨床実習生）の管理のもと診療の見学を行う。一連の見学が終了した後は、学生参加型の授業で「医療者としてのあり方」に関する討論を行い、個々の意見を出し合うとともに情報共有を図る。

【評価】

【レポート】

- ・レポートの提出により評価する。
- ・アクティビティ（コメントペーパー、レポート）
- ・情報検索および情報倫理は初年次科目「大学学習法」の中で行われており、その評価は科目全体の評価課題である論証型レポートの成績評価の一部として行っている。

- ・レポート提出

【複合的、総合的に評価】

- ・毎回の講義の評価点、出席評価点、レポート評点
- ・出席、プロセス評価シート、ポートフォリオ。
- ・誓いの言葉の作成、発表および提出、行動計画書の提出、質疑応答、報告書の作成で総合的に評価
- ・出席とレポート
- ・実習への参加の姿勢、提出したレポート（読書レポートを含む）等は<文章力>ルーブリックで評価する。
- ・期末試験（レポート）、授業での記入シートや課題などの提出及び教場における対面授業でのワーク等への貢献に基づき総合的に評価する。
- ・毎回の実習後に記載する「実習記録（実習の振り返り）」、実習態度（各診療科教員による評価）、グループワークでの成果等をもとに、総合的に評価を行う。

- ・レポート、客観試験

- ・ポートフォリオの提出、課題レポート提出により評価

- ・授業態度 10%、講義録 10%、科目試験 80%から総合的に評価する。試験やレポート等の解説は随時講義で行う
- ・事前学習の記録、講義中の記録を含むポートフォリオを講義後に提出し、その内容を授業担当者が評価する。定期試験で客観試験と論述試験を実施する。出席、態度を加味する。

- ・①ワークショップ：ルーブリックに基づいて、グループ内意見交換への参加態度（30%）をチューターが総合的に評価する、など。②平常点 20 点（毎回の受講態度＋毎回の課題）＋レポート 30 点＋定期試験 50 点＝100 点④試験の成績を 50%、レポートの評価を 30%、授業中に実施するワークへの取り組みを 10%、確認テストの成績を 10%として評価する。ワークへの取り組みは、提出（入力）されたワーク内容を対象とする。他、省略。

- ・平常点評価（総括的評価）、プレゼンテーション（総括的評価）、6年一貫したポートフォリオ（形成的評価）

- ・学習態度、提出物（ポートフォリオ、学習成果、その他書類）

【試験】

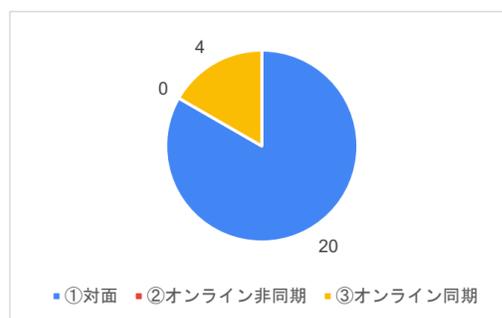
- ・期末試験
- ・期末試験の一部として評価する。
- ・定期試験

【形成的評価】

- ・形成的評価

インフラ（主たるもの）

【選択肢】	回答数
①対面	20
②オンライン非同期	0
③オンライン同期	4



4-2. (1) 「プロフェッショナリズム」に関する教育を教養科目（準備教育）以外で実施していますか。

【選択肢】	回答数
①はい	24
②いいえ	5



(2) 上記(1)で「①はい」を回答した場合、教育の概要を記載して下さい。

【概要】

【講義】

- ・プロフェッショナリズムと行動科学（2年必修科目）
- ・1年次の「歯学概論」、および、2-4年次の統合系科目である「歯学総論1～4」においてプロフェッショナリズムに関する講義およびグループワークを実施している。・4年次の「行動科学」において、医療プロフェッショナリズムに関する授業を実施している。・5-6年次の臨床実習において各診療科教員が症例を通して医療プロフェッショナリズム教育を行っている。

- ・歯科医師として適切な医療判断を行うための方法を習得し、医学的知識と倫理的知識を統合したアカウンタビリティの基礎を身につける、患者の自己決定権および患者の権利（診療情報開示、個人情報保護を含む）を理解する、歯科医師に課せられた社会的責任と法的責任を理解する。

- ・患者本位の臨床実習を円滑に進めるために、口腔歯学部基礎・臨床の各講義・実習で学んだ事項を総合的・有機的に再整理して必要な若干の事項を追加し、臨床実習に必要な知識、技能、態度を身につける。（授業全体の概要）

・臨床実習を目前に控えた時期に、社会性および職業観について深く考え、将来の歯科医師、歯学学者としての自覚を持たせ、倫理観を醸成する機会とする。学外から招聘する多彩な講師の講義を受講し、「生命倫理」「医療倫理・医療安全」「社会倫理」「研究倫理」に関して広く学ぶ。

・プロフェッショナルの古典的、現代的定義、目的、あり方等を教育をしている。
・プロフェッショナルを口腔総合医療学の重要なテーマの一つと位置付けて、国家資格の意味やプロフェッションの意味、利他的行動と社会的互惠について講義を行っている。

・歯科医師として求められる基本的な資質・能力、プロフェッショナリズム、歯科医師としての責務と裁量権、患者との信頼関係構築の重要性。

・歯学部学生に健康とはなにか、また、それを維持増進することに関わる歯科医学・歯科医療の全体像、あるいはそれらの基本的な構成を理解させ、今後、生涯を通じて最新の歯科医学を学ぶ態度を身につけさせる。また、歯科医師としての行為指針を与える。

・社会歯科学の講義の中で、プロフェッショナリズムを教育している。
・歯科医学研究および歯科医療における倫理と患者とのコミュニケーションの重要性を理解する。歯科医師として求められる基本的な法律関係の知識と考え方を習得する。

・外科系医師が患者に取るべき態度、姿勢について教育している。歯科医師になるために必要となる倫理規範と医療者に求められるプロフェッショナリズムについて教育している。

・患者中心の医療を提供し、法と倫理を遵守した歯科医師の養成は、1年次以降も継続して行っている。2年次の介護福祉実習や3年次の療育施設実習においては生命の尊厳について学修し、4年次後期に実施する模擬患者との医療面接実習などを通して、歯科医師として必要な態度、倫理について学修する。

・歯科医師には、人体に関する生物学的な知識・技能だけでなく、医療人として適切に患者および社会に貢献するための人間性、いわゆるプロフェッショナリズムを備えていることが強く求められている本授業では、将来プロフェッショナリズムに基づく歯科医療を実践するための基本的な知識、技能、態度、倫理的思考を修得する。

・第2学年では歯科の専門科目のうち、すべての基礎科目を学ぶ。そこで、ホームルームでは各専門科目の学習方法をそれぞれの専門家から教えて頂く。解剖体慰霊祭、ソーシャルコミュニティおよびForum for International Studentsを通して医療従事者として、ふさわしい態度、意識を身に付ける。

・プロフェッショナリズム教育は教育内容が広いジャンルに渡るため、それぞれをコースとして設定している。
・〇〇大学歯学部カリキュラムマップでは、知識・態度・技能領域に加え、プロフェッショナリズム・リテラシー獲得のための総合領域という科目分類を設けている。当コースは第1学年の初期から医療従事者としてのプロフェッショナリズムを意識させることを目的としている。そのために、経験豊富な歯科医師、歯科医師以外の保健医療従事者、さらには医療を受ける側からの視点による講義を通年にわたり展開する。これらにより、専門分野を本格的に学ぶ前の歯科医師になることへのモチベーションの維持向上を図り、さらにここで学ぶ複合的な知識を歯科学学生としての自らの成長に活用するためのリテラシー取得につなげることをも目的とする。

・歯科医師のコンピテンシーにおいて医の倫理、医療倫理、プロフェッショナリズムについて理解する。

・歯学概論、特別科目

【講義＋グループワーク】

・人の命と生活に深く関わり健康を守るという歯科医師としてのプロフェッショナリズム教育として日本歯科医学教育学会倫理・プロフェッショナリズム教育委員会編「よき歯科医療人になるための20の質問倫理的検討事例集2018年版」を教材としたグループワークを本学教員が8時間担当している。さらに、歯科医師の資格を持つ本学出身の弁護士が、法律関係の講義（歯科医師法・医療法など）を4時間担当している。

・臨床症例に基づいたTBLにより、臨床家として必要不可欠なEBMの姿勢、プロフェッショナリズムを身につける。さらに、プロフェッショナリズムの内容に特化したワークショップ形式の演習を実施する。医療人として必要な哲学観、倫理観に基づき、患者の病床、終末期に寄り添うための知識を養う。患者の意思を尊重し、医療・在宅介護現場で歯科医師としていかに貢献できるかを考える。

・一連の講義・演習を通して、学生が将来の歯科医療人像を明確にすることで、今後の情意教育、基礎医学教育、臨床基礎教育、および臨床実習で修得すべき知識・技能の重要性を理解する。あわせて歯科医療人像を具現化するための学習行動計画表を作成・ブラッシュアップし、歯科医療人になる歯学部の学生として、さらには社会的責任を課せられた医療人として自覚することを目的としている。

・具体的な事例についてJonsenらの4分割法を用いて臨床倫理についてのグループディスカッションを行い、歯科治療に留まらない対応方針を検討する。

【講義＋見学】

・地域および遠隔地における歯科保健活動について講義を行う。また離島が多数存在する〇〇県の特徴を理解し、本学が取り組んできた無歯科医地区での離島巡回歯科診療や歯科保険活動について、紹介と考察の機会を与える。さらに、地域歯科医療に携わる現場の臨床医の視点から、地域歯科医療活動の現状や問題点について学ぶ。

【授業テーマ】

【プロフェッショナリズム】

・プロフェッショナリズムを説明できる。
・プロフェッションとしての歯科医師のあり方を説明できる。
・歯科医師の責務を熟知し、歯科医師としてのプロフェッショナリズムおよび生涯学習について理解する。（当該授業のテーマ）プロフェッショナリズムを具体的に扱うのは40時間中2時間

・診療参加型臨床実習に臨む前に歯科医師として必要なプロフェッショナリズムを身につける。医療・在宅介護現場において、終末期および認知症の患者にいかに寄り添い、貢献できるかを考え、歯科医師として適切に行動するための知識を身につける。

・歯科医療人プロフェッショナリズム事例検討、プロフェッショナリズムってなかに、歯科医療人の活躍、今後の学習課題と行動計画表修正他。

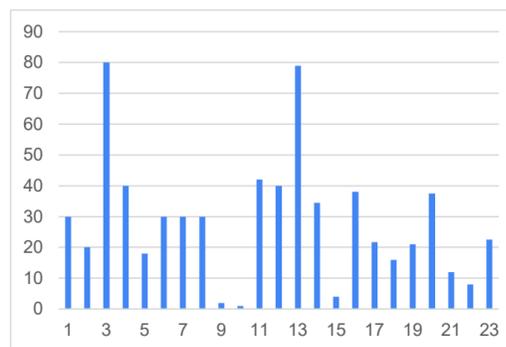
・プロフェッショナリズム、利他的行動、国家資格とは

【倫理】

・プロフェッショナルとしての臨床倫理判断について概説できる。

- ・医療倫理、倫理に関する規範、歯科診療に関わる倫理的問題、患者の権利、インフォームドコンセント、歯科医師法等の関連法規
- ・医の倫理・生命倫理を自覚し、患者中心の視点に立った歯科医師としての義務と責任を理解・実践できるようにする。
- ・医療倫理と医療安全、先天異常にかかわる倫理、臨床倫理学と臨床死生学、薬害肝炎との闘い、聴覚障害者の立場から歯科医療に望むこと、遺伝学的検査の倫理、学術研究の倫理、救急科からみた医療安全と緊急対応、新生児の倫理
- ・医療者の倫理、患者中心の歯科医療、患者の権利、臨床試験の倫理
- ・医療倫理、医療法律学
- ・医療人としての高い倫理観や人間性・協調性を醸成するために、医師・歯科医師に求められる医療倫理を学修する。
- ・倫理とプロフェッショナリズム。
- 【コンプライアンス】
- ・保健行動とコンプライアンス行動が説明できる。
- 【その他】
- ・行動形成における動機付けについて概説できる。
- ・健康支援と行動変容の意義を説明できる。
- ・段階的变化モデルについて説明ができる。
- ・歯学概論1、歯学総論1、歯学総論2、歯学総論3、歯学総論4、行動科学1、行動科学2、歯科臨床実習
- ・歯科医学史・概論
- ・医療面接のReflection
- ・歯科医学概論
- ・地域、コミュニティ、幼児、高齢者とのコミュニケーション能力を滋養する
- ・「外科学とは」、「術前の管理」、医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズム
- ・真心と情熱をもって患者中心の医療を提供し、健康を増進する責任感と態度を有し、生命の尊厳、守秘義務、医療安全、患者の権利について、法と医療倫理を遵守するとともに医療を担う後進の育成に寄与する。
- ・「患者と医療者（行動科学基礎）」、医歯学基盤教育(生命倫理I)、医歯学基盤教育(生命倫理II)、学年混合選択セミナー（プロフェッショナルとしての歯科医師）
- ・歯科医師になるために、解剖体慰霊祭、ソーシャルコミュニティーおよび Forum for International Studentsを通し、医療従事者として、ふさわしい態度、意識を身に付ける。ホームルームでは、歯科領域の専門科目を履修する上で必要な学習方法および日々の学習における注意点を理解する。
- ・医療コミュニケーション学、医の倫理、行動科学、歯科医学概論
- ・歯科医学概論 ※科目名
- ・研究室が担当している教科の概要、更に研究内容について学ぶ、歯学部や病院で学ぶ際に必要なルールやマナーを学ぶ、チーム医療、医事法制、法歯学、社会歯科学

授業時間数
平均29.5時間(最大:80時間、最小:1時間)



【所属】
<p>【基礎講座】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎各科 ・社会口腔保健学 ・歯科医用情報学 ・歯科薬理学 ・歯科衛生学講座 ・口腔衛生学講座 【2】 ・歯学教育学講座・歯科医学教育開発センター ・口腔病理学講座 ・解剖学講座 ・歯科理工学講座 ・口腔医学講座 予防歯科学分野（教務委員長） ・社会歯科学講座ほか <p>【臨床講座】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合歯科学 ・歯学系教員12名（臨床系教員） ・総合診療学分野他 ・総合歯科診療部 【3】 ・臨床各科 ・予防歯科学 ・口腔外科学講座 【2】 <p>【非常勤・外部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他大学医学部（非常勤講師） ・外部非常勤講師（外部弁護士を含む） ・外部講師（他大学教授） 【2】 ・学外非常勤講師 【2】 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療人間科学分野 ・歯学研究院、大学病院 ・歯学部専任教員・歯学系教員2名 【5】 ・医学部専任教員、非常勤講師 ・本学教員 【3】 ・薬害肝炎原告団、東アジアグリーフの集い ・歯学部附属病院、招聘教員 ・大学院医歯学総合研究科、統合研究機構 ・病院医員、客院教授

【目標】
<p>【知識・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯科医療における歯科医師のプロフェッショナリズムについて学び、健康支援者としての必要なアプローチを実施するために行動科学を理解する。 ・医療専門職に求められるプロフェッショナリズムについて理解し、良き医療者になっていくため、自身の行動を省察し常に高みを目指す態度を身につける。 ・人の命と生活に深く関わり健康を守るという歯科医師の職責を十分に自覚し、患者中心の歯科医療を実践しながら、歯科医師としての究めることができる人材を育成する。 ・臨床家の行動基盤をなすプロフェッショナリズムと、知的基盤を形成するEBMの歯科医学における重要性を理解し、歯科医師として生涯教育の基礎となる職業倫理と臨床判断能力を身につける。医療・在宅介護現場において、終末期および認知症の患者にいかに関わり、貢献できるかを考え、歯科医師として適切に行動するための知識を身につける。 ・①歯科医療人として修得すべき情意・技能に関するスキルを理解する。②アンプロフェッショナルな事例の検討を通して、他者の多様な価値感を認め、歯科医療人として自ら判断する力を醸成する。③歯科医療人としての将来像を明確にするために様々な歯科医学・医療領域について理解を深め、卒業までの行動計画表を作成・ブラッシュアップできる。④上記の作業を通じて社会に役立つ社会人・歯科医療人としての自覚を涵養する。 ・医療プロフェッショナリズムを涵養するために、プロフェッションの意味やプロフェッショナルとしての責務を理解する。 ・歯科医療における歯科医師のプロフェッショナリズムについて学び、健康支援者としての必要なアプローチを実施するために行動科学を理解する。 ・医療専門職に求められるプロフェッショナリズムについて理解し、良き医療者になっていくため、自身の行動を省察し常に高みを目指す態度を身につける。 ・人の命と生活に深く関わり健康を守るという歯科医師の職責を十分に自覚し、患者中心の歯科医療を実践しながら、歯科医師としての究めることができる人材を育成する。

・臨床家の行動基盤をなすプロフェッショナリズムと、知的基盤を形成するEBMの歯科医学における重要性を理解し、歯科医師として生涯教育の基礎となる職業倫理と臨床判断能力を身につける。医療・在宅介護現場において、終末期および認知症の患者にいかに関わり、貢献できるかを考え、歯科医師として適切に行動するための知識を身につける。

・①歯科医療人として修得すべき情意・技能に関するスキルを理解する。②アンプロフェッショナルな事例の検討を通して、他者の多様な価値感を認め、歯科医療人として自ら判断する力を醸成する。③歯科医療人としての将来像を明確にするために様々な歯科医学・医療領域について理解を深め、卒業までの行動計画表を作成・ブラッシュアップできる。④上記の作業を通じて社会に役立つ社会人・歯科医療人としての自覚を涵養する。

・医療プロフェッショナリズムを涵養するために、プロフェッションの意味やプロフェッショナルとしての責務を理解する。
・社会から求められる医療人・歯科医師像について理解する。歯科医学の基本的構成と歯学教育課程および社会における歯科医療の概略を理解する。歯学部学生として自己の役割と行動を常に自己評価することの意義を理解する。

・歯科医師としての責務を全うするために、歯科医学研究および歯科医療における倫理と患者とのコミュニケーションの重要性を理解する、歯科医師としての業務を遂行するために、歯科医師法、関連法規および患者の権利義務を理解し、歯科医師として求められる基本的な法律関係の知識と考え方を習得する。

・誠実な外科系医師になること。歯科医師に必要な倫理規範を理解すること。
・歯科医師としての責務を自覚し、強い責任感と倫理観を持って、患者や地域住民に医療を提供でき、医療を共に担う後輩を育てる責任感を有する医療者を育成する。

・歯科医学は医学の1領域である。それ故、歯科医療を行う者は口腔領域に特化した歯科医学と同時に医学全般に普遍的な知識、技能、倫理観を有することが求められる。それらを育成するためには問題抽出・解決能力に裏打ちされた自己開発能力が必要となる。さらに、歯科医師として社会貢献するためには、現在歯科医師に求められている社会的要請を理解し、その要請に応えるための生涯学習、多職種連携をはじめとする基本的態度を身につけることが必須である。このため、初年度に歯科医学を構成する種々の概念を各専門分野の観点から多角的に学ぶことにより、歯科医学・医療の本質的理解への到達に必要な学修プロセスを理解できるようになる。

・最善の歯科医療を提供するために、倫理的な選択を行うための技法に関する知識・技能・態度を身につける。
・1医療、歯科医療及び医学・歯学研究における倫理を遵守するために、その重要性を理解し、医療倫理・研究倫理に関する知識と態度を身に付ける。2豊かな人間性と生命の尊厳についての深い認識を有し、人の命と健康を守る歯科医師としての義務と責任を自覚する。3発展し続ける歯科医学の中で必要な知識を身に付け、根拠に基づいた医療(evidence-based medicine <EBM>)を基盤に、経験も踏まえながら、幅広い症候・病態・疾患に対応する。

・歯学部や病院で学ぶ際に必要なルールやマナーを学ぶ、通常の授業科目では含まれない科目をオムニバスとして各界の専門家が講義する。この中には医事法制、歯科医療管理学、社会歯科学、血液学、チームアプローチ、在宅口腔ケアなどが含まれる。

【説明】

・歯科医師として適切な医療判断を行うための方法を習得し、医学的知識と倫理的知識を統合したアカウンタビリティの基礎を身につける。患者の自己決定権および患者の権利(診療情報開示、個人情報保護を含む)を説明できる。歯科医師に課せられた社会的責任と法的責任を説明できる。

・プロフェッショナリズムの概念を説明し、生涯学習について述べるができる。
・生命倫理、医療倫理・医療安全の基本について概説出来る。社会倫理、研究倫理の基本について概説できる。将来の歯科医師、歯学研究者としての自覚を持つ。

・歯科医師として適切な医療判断を行うための方法を習得し、医学的知識と倫理的知識を統合したアカウンタビリティの基礎を身につける。患者の自己決定権および患者の権利(診療情報開示、個人情報保護を含む)を説明できる。歯科医師に課せられた社会的責任と法的責任を説明できる。

・プロフェッショナリズムの概念を説明し、生涯学習について述べるができる。
・生命倫理、医療倫理・医療安全の基本について概説出来る。社会倫理、研究倫理の基本について概説できる。将来の歯科医師、歯学研究者としての自覚を持つ。

・地域および離島を含む医療過疎地における歯科保健活動について学習する。地域における医療の供給体制や、医療過疎地における歯科保健活動の理解、離島が多数存在する〇〇県の特徴を把握した上での離島にける多様な医療体制の理解、大規模災害時の歯科医療の必要性や供給体制の理解、さらに、地域で行われる歯科医療活動の現状や問題点の理解を促す。これによって、多様な地域で行われる歯科保健活動について理解を深め、地域保健活動への参加意識を養い、歯学生としての学習意欲を鼓舞する。

・プロフェッショナリズムの定義について説明する、ノンテクニカルスキルについて説明する、自身の体験や考え、授業で提示された事例について医療プロフェッショナリズムの文脈で省察する、歯学生、歯科医師として求められる実践的倫理判断の養成を図る。

・1. 医療従事者として、ふさわしい行動をとれる。2. 地域住民に挨拶ができる。3. グループを組んで清掃活動が行える。4. 英語で討議できる。5. 歯科領域の基礎専門科目の学習方法が説明できる。

【分析】

・医療面接に適した態度を分析できる、医療面接(SP演習)で使用された質問法を分析できる、医療面接(SP演習)で使用された言語的コミュニケーションスキルを分析できる、医療面接(SP演習)で使用された非言語的コミュニケーションスキルを分析できる、医療面接(SP演習)の歯科疾患の臨床推論を分析できる。

【その他】

・各コース毎に、一般目標と到達目標を全ユニットに設定している。

【方略】

【講義】

・講義(講義毎にテーマを設定しそのテーマを専門としている講師が講義を行う。視覚素材を利用した実践的講義、外科系医師として望ましい態度や姿勢について経験を交えて述べる。医師・歯科医師としての必要となる倫理規範についての講義。等)

・授業は、講義を中心とする。事前に授業内容に関連する資料を配布するので、必ず事前に読んでおくこと。講義中に当日のテーマに関しての授業の振り返りとして、医療倫理ワークシート・振り返りシートによる演習を行う。次回の授業で、原則論に従った考え方を解説する。

・多彩な分野の講師から直接講義を受け、医療者として具備すべき倫理について学ぶ。
・国家資格や利他的行動に基づいた社会的互恵性についての講義を聴講し、歯科医師としての医療プロフェッショナリズムを身につける。

・オリエンテーション、障害学、訪問歯科の現場、患者-医療者信頼関係構築のために行動科学の理論、行動科学の理論(総括)、担当講師は、医療のさまざまな領域で活動する専門医、専門職の講師をはじめとして、医療以外の分野で活動している実務者にもそれぞれの立場からみた医療や研究について、すなわち他職種や医療者以外の倫理観を含めて問題提起あるいは情報提供を得て、医療者・研究者の倫理について実践的な講義を展開する。

【演習】

- ・幼稚園、保健所、老健施設、地域歯科開業医へ学生を派遣して見学、体験をする。
- ・学内実習、学外医療福祉施設実習、模擬患者に対する医療面接実習、レポート提出。
- ・見学

【グループワーク】

・フロンティア基礎科目(3年生)では、本学の教員が「よき歯科医療人になるための20の質問 倫理的検討事例集2018年版」を教材としたグループワークを8時間実施している。さらに、歯科医師の資格を持つ本学出身の弁護士が、法律関係の講義を4時間担当している。また、フロンティア発展・臨床講義(5~6年生)では、死生学・法的視点、社会歯科学などに繋げている。

- ・グループディスカッション、ケーススタディ、振り返り・実習書(配布)、症例ケース資料
- ・ロールプレイ
- ・SGD
- ・PBL(SGDによる問題解決学習)

【レポート】

・事前学習を行い、それに基づいた試験を行う。講義を行った後、さらに試験を行い、フィードバックを行う。プロフェッショナリズムに特化した内容では、レポートやグループ発表を中心に実施する。集中講義を行い、振り返りとしてレポートを課している。

【評価】

【レポート】

- ・各科目の評価基準(出席状況、レポートなど)にて評価している。
- ・出席とレポート提出により評価する。
- ・講義(ユニット)毎に提出するレポートより評価する。レポートは得点化し、全講義の平均点を講義の評価点とする。届出のない欠席、レポートの不提出はゼロ点として平均を算出する。レポートは採点后にコメントを付して返却する。

【レポート+試験】

- ・課題レポート、筆記試験
- ・筆記試験、レポート等により総合的に評価する。
- ・毎回の授業で小テスト、レポートなどを課し、出席や態度を加味した総合点で評価する。

【レポート+発表】

- ・レポート+グループ発表、レポート。

【課題+試験】

・授業の課題(50%)と定期試験(50%)で評価する。授業の振り返りとして、医療倫理ワークシート・振り返りシートを授業中に行い、授業後に提出する。次の時間に、シートについての解法を原則論に従って解説する。

- ・筆記試験および授業中に課す課題

【試験】

- ・定期客観試験、授業態度、テスト(授業全体の評価)
- ・期末試験
- ・多肢選択問題で、知識の有無を評価する。
- ・客観試験
- ・講義後に小テストを実施し、感想など記述させているが、納得して聞いているように思われる。期末試験の一部として評価している。

【総合的評価】

・事前・事後レポート、確認テスト、行動計画書提出、事例検討レポートで総合的評価
・知識に関する評価は筆記・口頭試験を、態度を加えた評価はポートフォリオ、レポート、ルーブリック等を用い、成長過程も合わせて評価する。

・授業の参加状況、レポートの提出状況、レポートの内容を担当教員・指導者間で協議し、成績評価を行う。講義への出席を単位取得の必要条件とし、到達度評価甲・乙の点数を中心に、適宜実施する小テストおよび小レポート、プレゼンテーションおよびディスカッションへの参加、素行等をもとにあわせて総合的に評価する。

・出席数、受講態度および提出物などによって総合的に判定する。なお、「ODUソーシャルコミュニティ」は必ず出席すること(遅刻や欠席した場合、予備日に振替実施)。また、「Forum for International Students(研究発表会)」にも必ず出席すること。出席状況、提出物等は随時確認し、不備があれば連絡する。

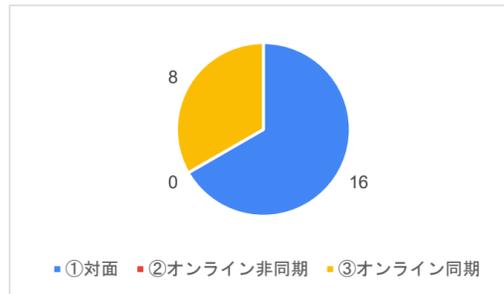
- ・客観試験、論述試験、レポート、態度、観察記録

【ポートフォリオ】

- ・6年一貫したポートフォリオ(形成的評価)、観察記録(総括的評価)、定期試験(総括的評価)
- ・ポートフォリオ

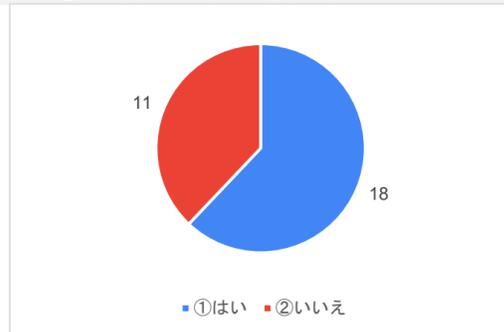
インフラ（主たるもの）

【選択肢】	回答数
①対面	16
②オンライン非同期	0
③オンライン同期	8



4-3. (1) 臨床実習中に「プロフェッショナリズム」に関する教育を実施していますか。

【選択肢】	回答数
①はい	18
②いいえ	11



(2) 上記(1)で「①はい」を回答した場合、教育の概要（座学のみならず臨床実習等の現場での教育を合わせた相互的な取り組み等含め）を記載して下さい。

【概要】

【研修】

- ・MT (Medical Team) 研修を実施。〇〇大学内での看護師、薬剤師、管理栄養士、受付事務等の仕事内容について学び、プロフェッショナリズムを涵養する。
- ・高度医療支援・周術期口腔機能管理実習では、実際の診療に立ち会い、生死の狭間に置かれた患者やその患者を支える人々と接することで、医療人としてのプロフェッショナリズムを育む体験を行っている。
- ・地域開業での見学や離島歯科診療へ同行して、幅広い視野で歯科医療を俯瞰する。

【講義】

- ・配属診療科の教員による各診療科教員が症例を通して医療プロフェッショナリズム教育を行っている。
- ・臨床実習を行っている6年生は、一週のうち月・金が臨床講義Ⅱ、火～木が病院実習であり、その臨床講義枠に、本学の客員教授の称号を持ち、歯科医師・弁護士のダブルライセンスを持つ本学出身の弁護士が「法的視点から」と題し8時間講義している。
- ・5年次前期の臨床実習期間中の授業（プロフェッショナリズムⅣ）で、歯科医療専門職の倫理、患者の権利、専門職の義務や歯科医療における中心的価値、倫理的意思決定プロセス、終末期医療の現場における歯科医療のあり方について考察する。
- ・臨床参加型実習を実施する上で必要な医療安全、医療保険制度、患者の権利と責任、職業倫理指針、院内感染予防、感染性医療廃棄物管理、COVID-19対策ほかについての講義。

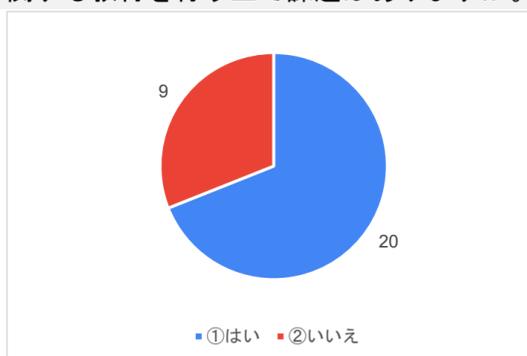
- ・税務大学の講義

【実習】

- ・診療参加型臨床実習の中で、患者の主訴や背景を考慮した治療方針・計画の立案、またインフォームドコンセントの取得など、それまでに学習してきた内容を実際の患者で実践している。
- ・学部の各科・部の指導者から、日常臨床で重要となる種々のテーマやその意義を解説してもらうとともに、講師の先生をロールモデルとして将来の自分の歯科医師像を考えてもらう。
- ・臨床実習開始前の登院式において「ジュネーブ宣言」を朗読し、臨床実習に臨んでいる。診療参加型臨床実習を通して、プロフェッショナリズムを醸成するとともに、プロフェッショナル講義も実施している（登院式は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、現在中止している）
- ・臨床実習の現場において、医療プロフェッショナルとしての責務を果たすよう実習を行っている。
- ・Vertical Tierにおいて、早期に歯科臨床を体験するとともに、基本的ならびに高度な歯科医学実践へのモチベーションを醸成する。臨床実習における研習内容について3年生は講義・指導を5年生（先輩）から受けるとともに、1年生（後輩）に対して、自ら学修してきた歯科医学・歯科医療について講義・指導を行い、臨床系科目の理解を深めるとともに、相互が歯学部学生としての自覚を深める教育を行っている。
- ・病院での望ましいチーム医療の活動を理解するために、病棟で複数の学部学生が連携して患者を担当し、チーム医療の実践に必要な知識、技能、態度を修得する。
- ・診療参加型臨床実習において指導医と電子ポートフォリオを用いて教育を行っている。
- ・本学の臨床実習は担当医制であるため、おのずとプロフェッショナリズムを学修する。
- ・低学年から病院実習を実施し、臨床研究も含めたプロフェッショナリズムについて教育をしている。臨床実習においては各分野の配属先でプロフェッショナリズムについて教育している。
- ・診療開始時の患者確認や患者とのコミュニケーションをとる（トリアージも含む）、技能練習、他職種連携医療への参加、院内掲示の法的理解。

4-4. -1 「プロフェッショナル教育」に関する教育を行う上で課題はありますか。

【選択肢】	回答数
①はい	20
②いいえ	9



(2) 上記(1)で「①はい」を回答した場合、概要を記載して下さい。

【概要】

【定義】

・何をどこまで学習すれば、卒前教育としてのプロフェッショナリズムを習得できたのかを明確にする必要があると考える。
 ・本回答は、『歯学教育モデル・コア・カリキュラム平成28年度改訂版』をもとに、「プロフェッショナル」という用語の意味を理解して記載したが、いまだ「プロフェッショナル」あるいは「プロフェッショナル教育」の定義が明確でないように感じられる。

- ・教育内容が漠然としている。いわば歯科専門分野はすべてプロフェッショナル教育とも言えるため境界が難しい。
- ・何をどこまで教えるべきなのか、わかりにくい。評価方法が難しい。
- ・プロフェッショナルの到達目標の設定。

【教育内容・指導者】

・現在「プロフェッショナル教育」を系統的に実施する科目がないため、断片的な指導になっている。
 ・新しい課題の教育には、学生だけでなく教員すべてに行う必要があること。
 ・教育者の育成、教育プログラムの構築
 ・コロナ渦における国際感覚を養う教育・歯科医師国家試験対策における実習課題の多さにより、ターミナルケア（死の倫理観）を養う教育の不足。

・臨床実習でプロフェッショナル教育を行うにあたり、現状では各専門科目に分かれて実習を行っているため、プロフェッショナル教育を含めた総合的な視点から教育を行うことを考える必要がある。

- ・研修医の評価マニュアルの記載に見られるように、観察機会をどのように設けるかということについて工夫が必要である。
- ・プロフェッショナル教育のカリキュラム策定が難しい。
- ・授業科目が多数に渡るために、学習者にプロフェッショナルの教育内容として捉えられているかの判断が難しい。

・低学年層で学ぶプロフェッショナルはいわば大枠であり、それを意識させることを目的としている。高学年になると、より具体的に将来のビジョンを考えるようになり、学生毎に目指すプロフェッショナルがより具体的になり細分化される。ただ、この時期はCBTや国家試験等、目の前の目標を達成するための教育がメインとなり、より専門性の高いプロフェッショナル教育が行えていない現状がある。

- ・人格の涵養に寄与するカリキュラムが無いことや、アクティブラーニングで学ばせようとした際、適切な教材、方略が少ない。

【評価】

・実施したプロフェッショナル教育に対する学生への評価は、教育内容的に点数で割り切れるものではないため、クリアを行うことで困難である。

- ・現状、知識に対する評価が主体であること。
- ・歯科医師としての強い責任感と倫理観を持って患者や地域住民に医療を提供することを学んでも評価方法が難しく、多様な評価を組合せているが正しい評価が出来ているのか検討している。

- ・評価が難しい。

【講義】

・歯科医師として必須の項目であるが、学生の興味を引いて関心を高めることが難しい。

5. その他

5-1. (1) 歯学に関する学部に係る専任教員数について、人数を記載して下さい。

	①教授	②准教授	③講師	④助教	⑤助手	⑥その他
歯学部（歯学科）所属教員数（平均）	26	18	22	45	6	4
病院所属教員数（平均）	4	3	10	19	2	0

【その他】

- ・歯科技工士による実習指導要員
- ・専修医
- ・歯科衛生専門学校専任教員